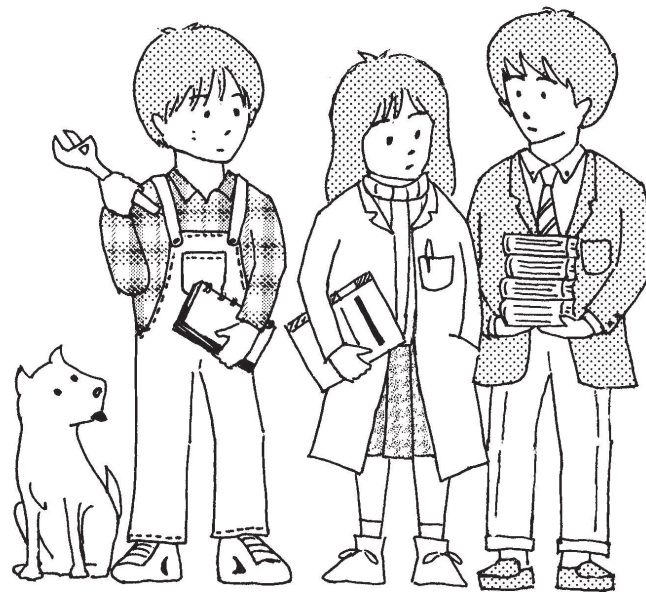


SYLLABUS

2004

A. 地球工学科



京都大学工学部

A 地球工学科

地球工学科

30010 地球工学総論	A-1
23010 基礎情報処理演習	A-2
22010 基礎情報処理	A-3
30043 情報処理及び演習	A-4
30030 確率統計解析及び演習	A-5
30050 地球工学基礎数理	A-6
30100 一般力学	A-7
31310 社会基盤デザイン	A-8
31320 基礎環境工学 I	A-9
31330 資源エネルギー論	A-10
20510 工業数学 B 1	A-11
30080 構造力学 I 及び演習	A-12
30130 水理学及び演習	A-13
31060 土質力学 及び演習	A-14
31620 土質力学 及び演習	A-15
31340 計画システム分析及び演習	A-16
30140 環境衛生学	A-17
31350 物理探査学	A-18
30240 材料学	A-19
30300 水文学基礎	A-20
30400 測量学及び実習	A-21
30420 計画システム分析 II	A-22
20610 工業数学 B2 (土木工学コース)	A-23
20611 工業数学 B2 (資源工学コース)	A-24
31170 連続体の力学	A-25
30260 構造力学 III	A-26
30270 構造実験	A-27
30310 水理学 II	A-28
30330 海岸海洋工学	A-29
30360 土質実験	A-30
30430 交通システム工学	A-31
30180 弾性学及び演習	A-32
30230 材料試験法	A-33
31180 物理化学基礎	A-34
31190 伝熱学	A-35
31080 地質工学及び演習	A-36

31090	物理探査工学	A-37
30510	水・土壌環境工学	A-38
31100	大気・騒音環境工学	A-39
30530	水質学	A-40
30590	環境装置工学	A-41
30610	環境生物・化学実験	A-42
30620	環境物理計測実験	A-43
30480	鉄道システム	A-44
30500	地球環境工学	A-45
31070	土質力学 II 及び演習	A-46
30630	環境プロセス実験	A-47
30250	コンクリート工学	A-48
30280	構造設計学	A-49
31110	波動・振動学（土木工学コース）	A-50
31111	波動・振動学（資源工学コース）	A-51
30320	水資源工学	A-52
31210	流れ学	A-53
30870	水理実験	A-54
31120	岩盤工学（土木工学コース）	A-55
31121	岩盤工学（資源工学コース）	A-56
30390	土木施工学	A-57
30410	応用測量学	A-58
30440	社会システム計画論	A-59
30450	都市・地域計画	A-60
30460	河川工学	A-61
30470	道路工学	A-62
30850	公共経済学	A-63
31630	都市景観デザイン	A-64
30710	資源地質学	A-65
31200	地殻開発工学	A-66
30760	工業計測	A-67
30770	分離工学	A-68
30790	塑性学	A-69
30990	工業火薬学	A-70
31140	海洋資源論	A-71
30650	応力解析法及び演習	A-72
31000	製鉄製鋼設備	A-73
30540	上水道工学	A-74
30550	下水道工学	A-75
30560	水処理工学	A-76
30570	放射線衛生工学	A-77

30580 廃棄物工学	A-78
30600 環境システム工学	A-79
31010 学外実習第一	A-80
30830 地震・風工学	A-81
30820 ターミナル工学	A-82
30840 土木法規	A-83
30860 材料実験	A-84
30880 地球防災工学	A-85
31150 地球工学デザイン I (土木工学コース)	A-86
31151 地球工学デザイン I (資源工学コース)	A-87
31152 地球工学デザイン I (環境工学コース)	A-88
31160 地球工学デザイン II (土木工学コース)	A-89
31161 地球工学デザイン II (資源工学コース)	A-90
31162 地球工学デザイン II (環境工学コース)	A-91
31020 学外実習第二	A-92
21051 工学倫理	A-93
30890 建築工学概論	A-94

地球工学総論

30010

Introduction to Global Engineering

【配当学年】1年前期

【担当者】関連教官全員

【内 容】 地球工学総論は、専門教育の最初かつ唯一の必修科目として、全体講義と少人数ゼミのハイブリッド形式で実施する授業科目である。系統的な講義によって、「地球工学という学問とは何か、それが目指すべき方向や貢献すべきことがら何であるか」について解説するとともに、個別教官によるゼミ形式の指導のもと、地球工学に関連した具体的な課題に自身で取り組むことによって、「地球工学科に在籍する4年間に何を学修すべきで、また、それにどのように取り組むべきか」について自ら学ぶ機会とする。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
ガイダンス	1	本講義の内容（授業構成、全体講義の内容、少人数ゼミ実施要領等）の説明。
全体講義	8	本年度は下記のテーマ設定で講義を行う。 「21世紀の課題と地球工学が果たすべき役割」 サブテーマ1:「21世紀の土木」(4週) サブテーマ2:「地球温暖化とエネルギー問題」(2週) サブテーマ3:「環境リスクと安全な社会」(2週)
少人数ゼミ	3	地球工学科に関係している全研究室のいずれか1つに個々人分かれて、ゼミ形式の授業を受ける。その中で、教官の指導の下、地球工学に関連した特定の課題（調査・実習・実験など）を選択し、それに自ら取り組む。
安全と工学倫理	1	地球工学科での学修と研究活動に際して持つべき安全に対する意識と、技術者・研究者として持つべき工学倫理について解説する。
発表会	1	少人数ゼミにおいて取り組んだ課題の内容と成果について、試験期間内に実施する発表会において、各自プレゼンテーションを行う。

【教科書】 全体講義においては、適宜プリントを配布する。

【参考書】 少人数ゼミにおいては、各自の指導教官から指示される。

【その他】 少人数ゼミの指導教官からは、事前に相談しておけば、講義時間に関係なく個別指導を受けることができる。

<成績評価の方法> 全体講義については、出席とレポート等によって評価する。また、少人数ゼミについては、課題に取り組む姿勢と最終週に行うプレゼンテーションにもとづいて評価する。

基礎情報処理演習

23010

Exercises in Information Processing Basics

【配当学年】1年前期

【担当者】相浦，沖，小野（祐），小林（俊），真田，松本（忠），村田，米田

【内 容】UNIX系OS（Linux）を道具として使いこなすための演習である。メディアセンターにおいて履修者が実際に端末を使用して演習を行う。毎回の課題を通じて、「問題解決のためのプログラム作成」「計算の実行」「計算結果の図化」「レポート作成（文章整形）」という一連のプロセスを処理する方法を理解し、今後必要となる計算機に関する基本的なスキルを身に付ける。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概要，文字の入力とファイル作成	3	端末からのログイン・ログアウトなど基本的な操作の実行。エディタを利用して，アルファベットおよび日本語の入力方法を学ぶ。文書ファイルを作成して印刷し，成果を提出する。
電子メールとweb閲覧	2	電子メールの仕組みを理解し，端末での送受信の方法について学ぶ。本演習の出席およびレポートは電子メールを利用する。また，webの閲覧方法について学び，必要な情報を検索して調べる方法を身に付ける。ネットワークを利用する上でのマナーやセキュリティについても留意する。
UNIX コマンド・シェル	1	基本的なUNIXコマンドについて学び，使用法を身に付ける。まず，ファイルシステムについて理解し，ファイルを取り扱う上で重要なリダイレクションとパイプについても使用法を身に付ける。
文章整形	2～3	pL ^A T _E Xを利用して，思い通りに文章が整形できるようにする。また，数式の出力方法や図の挿入方法についても学ぶ。
グラフ作成	1	gnuplotを使用して，グラフ作成方法（プロット，軸スケール，注釈など）について学ぶ。
プログラミング	3～4	fortranを使用して，基本的なプログラミングについて理解する。とくに，プログラムの流れを変えるための繰り返しと条件分岐の構造を理解するとともに，その命令文の使用法を学ぶ。

【教科書】基礎情報処理演習（京都大学）

【その他】T1～T4の4クラスで行う。途中からの出席はできない。毎回の出席・演習課題および最終レポート（または筆記試験）により成績評価を行う。メディアセンターで端末を使用して演習を行うため，利用コードが必要である。「情報処理及び演習（1年後期～）」は本演習を履修していることを前提として行われる。

基礎情報処理

22010

Information Processing Basics

【配当学年】1

【担当者】稲垣耕作

【内 容】以下の内容を中心に講義形式で行う予定である。 1. コンピュータとはなにか 2. デジタル情報の世界 3. プログラムを作る 4. アルゴリズムを工夫する 5. ハードウェア設計の基礎 6. システムとしてのコンピュータ 7. さまざまな情報処理 8. コンピュータと情報通信 9. 大量データの処理 10. コンピュータ科学の諸課題

【教科書】稲垣耕作『コンピュータ科学の基礎』（コロナ社）

【参考書】授業中に適宜紹介する。

【予備知識】前期「基礎情報処理演習」を履修することを強く勧める。

情報処理及び演習

30043

Computer Programming in Global Engineering

【配当学年】1年後期

【担当者】牛島，岸田，塚田，藤本，相浦，永禮，松本（忠），八木

【内 容】地球工学におけるコンピュータ利用の現状と必要とされる情報処理技術を解説するとともに，プログラミング言語を習得させる．実際にコンピュータを使用して，科学技術計算言語である FORTRAN のプログラミング及び計算の実習を行い，地球工学における情報処理に関する基礎的能力を習得させる．成績評価は，期末試験およびレポート等を総合的に勘案して行う．

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
情報処理概説	2	地球工学におけるコンピュータ利用の現状と，将来必要とされる情報処理技術の概要を説明する．また，実習で用いるプログラミング言語 (FORTRAN90) 及び計算機の概要と端末の使用方法について説明する．
入出力と変数	2	簡単なプログラムを例として，入力，計算処理，出力からなる基本的なプログラムの構成を説明し，組み込み関数，入出力の命令文の使用方法を理解させる．また，データの種類を説明し，宣言文の書き方，計算上の注意点について述べる．
分岐と繰り返し	2	プログラムの流れを変えるための条件分岐，繰り返しなどの構造を解説するとともに，命令文の使用方法を述べる．また，フローチャートによるプログラム構造の表現について説明する．
配列と文字変数	2	実用的計算を行う上で重要な配列の概念を解説し，その宣言，入出力，参照の方法を説明する．また，文字変数の宣言，参照，結合，組み込み関数の適用方法等を理解させる．
サブルーチン	2	大規模なプログラムを機能ごとに作成する方法を説明し，サブルーチン，関数副プログラムの使用法を理解させる．
応用計算	3	以上のプログラミングに関する基礎を前提として，地球工学分野における代表的な応用計算の例を示す．統計処理，グラフ作り，乱数の発生，シミュレーション，数値計算法などを取りあげる．アルゴリズムの整理，フローチャートの作成，計算結果のまとめをレポートとして提出させ，プログラムの作成手順を習熟させる．
期末試験	1	定期試験中に行う．

【教科書】富田：FORTRAN90 プログラミング 培風館

【予備知識】基礎情報処理演習を履修していること．

【その他】T1～T4の4クラスで行う．途中からの出席はできない．オフィスアワーは特に設けませんが，必要に応じて各教室で対応する．

確率統計解析及び演習

30030

Probabilistic and Statistical Analysis and Exercises

【配当学年】2年前期

【担当者】北村・東野・中北・堀

【内 容】地球工学における数理的処理の基礎的方法として、確率統計解析の方法と工学への応用について講述する。特に、確率統計の解析理念を検討し、基礎的な確率分布とその利用方法を述べ、さらに統計的な推定検定の方法を概説する。また、応用的な方法として、多変量解析について、工学的意味を重視して講述する。講義は4クラスに分かれての並列講義である。成績評価の詳細は、各クラスの担当教官から初回講義時に伝える。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
確率統計的方法の意義	1	確率統計の工学的な意義について講述し、工学全般における必要性について概説する。
不確定現象の確率的把握	3	確率概念とその基本定理について述べる。特に、確率変数、確率分布関数、確率密度関数、積率母関数および特性関数を説明するとともに多次元確率分布、確率変数の変換・合成について講述する。
確率分布モデル	3	中心極限定理から導かれる正規分布、ランダム現象を示すポアソン分布などの実現象を表現するために有効な各種の確率分布について、それらの特徴、性質について講述する。
標本分布および統計的推定・検定	4	χ^2 分布、t 分布、F 分布などの標本分布とその求め方について説明するとともに、標本の値から母集団の確率的性質を導くための統計的推定について、点推定および区間推定の考え方およびその方法、さらに工学的現象の有意性を検証するための統計的検定法について講述する。
多変量の統計分析・回帰分析	2	確率統計の理論をもとに、主として調査データを分析するための多変量解析、分散分析の方法について述べる。特に、一次回帰分析を例として、確率モデルと信頼限界について概説する。

【教科書】授業時にプリントを配布する。

【参考書】授業中に適宜紹介する。

【予備知識】微分積分学、線形代数学を履修していることが望ましい。

【その他】4クラスに分かれて並列講義を行う。当該年度の授業回数などに応じて、一部省略・追加がありうる。オフィスアワーは特に設けないが、授業・演習時または教官室で質問を受け付ける（事前にアポイントメントを取ること、教官へのコンタクト方法はクラス毎に初回講義時に伝える）。

地球工学基礎数理

30050

Mathematics for Global Engineering

【配当学年】2年前期

【担当者】五十嵐・宇野・小高・後藤・清水・塚田・新苗・藤原

【内 容】地球工学の各専門科目に要求される数理解析の基礎的能力を養成することを目的として、常微分方程式・偏微分方程式とその各種解法に関連する事項について解説し、演習を通じてその理解を深める。地球工学に関連する基本的な現象の例についても適宜取り上げ、数理モデルの導出から解の導出に至る過程を具体的に説明する。成績評価は、期末試験、レポート、小試験等を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
常微分方程式 とラプラス変換	6	1階微分方程式，線形微分方程式，高階微分方程式の取り扱いおよび基本的な解法を習得する。特に，常微分方程式の線形性に基づく解法について講述するとともに，力学や振動問題，熱伝導現象などへの適用についても解説する。また，常微分方程式の初期値・境界値問題の解法として，ラプラス変換による解法を説明する。
ベクトル解析	2	ベクトルの内積，外積，ベクトルの勾配，発散，回転，ベクトルの面積分，線積分（ガウスの発散定理，ストークスの定理）について述べる。これらの概念の連続体力学への応用等にも触れる。
偏微分方程式	5	偏微分方程式，特に波動方程式やラプラス方程式などに代表される線形2階偏微分方程式に関する解説および演習を行う。初期値・境界値問題の解法として，変数分離法，ラプラス変換，フーリエ級数およびフーリエ変換などによる解法を説明する。波動伝播，流体中の移動・拡散現象，地盤の圧密現象などへの適用についても適宜言及する。期末試験： 定期試験期間中に行う。

【教科書】本講義用に作成された資料を配布

【参考書】指定しない。

【予備知識】総合人間学部の微分積分学 A，B，線形代数学 A，B の知識を前提とする。

【その他】4クラスに分け，クラス毎に定められた教員により同じ時間帯に授業を行う。オフィスアワーは各教員別に設定し，時間，コンタクト方法等は初回講義時に伝える。

一般力学

30100

Fundamental Mechanics

【配当学年】2年前期

【担当者】田村・松岡（俊）

【内 容】質点，質点系および剛体を中心に，ニュートン力学の基礎とその工学への応用について講述する．とくに，1学年の数学を基本として，力学で必要となる数学的手法を紹介するとともに，専門科目としての学ぶ種々の力学との関連を説明しながら，それらを体系的に理解できる能力を養成する．

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
数学的基礎	2	単振動，連成振動を理解するために必要な2階常微分方程式の解の構成法および固有値問題．速度，加速度ベクトル，仕事，保存力，ポテンシャルの概念に必要な最小限の範囲のベクトル解析等．
運動の法則	2	速度，加速度ベクトルの定義と各種座標系におけるそれらの成分の計算法．ニュートンの運動法則の意義．運動量，角運動量とその保存則．単振動，減衰振動，強制振動，固有周期，共鳴．
仕事とエネルギー	2	運動方程式，仕事，運動エネルギーの関係．保存力と位置エネルギー，力学的エネルギー保存則．外力ポテンシャルと仕事．
運動座標系	1	運動方程式とガリレイ変換．回転座標系と慣性力（遠心力，コリオリ力）．
質点系の力学	2	重心の運動と相対運動．運動量と角運動量の保存則．内力と外力．連成振動と固有モード．座標変換と運動の表現．
剛体の力学	3	自由度と剛体の定義．力，偶力，力のモーメント，つりあい条件．固定軸回りの回転，角速度，角加速度，慣性モーメント．慣性主軸と主慣性モーメント．剛体の運動とオイラーの方程式．
解析力学の基礎	2	束縛条件，束縛力，一般化座標，一般化力，ラグランジアンとラグランジュの運動方程式．

【教科書】田村 武：連続体力学入門（朝倉書店）田村担当分

小出昭一郎：力学（岩波全書）松岡（俊）担当分

【参考書】鶴井 明：工業力学（培風館）

【予備知識】総合人間学部の微分積分学，線形代数学を前提として講義する．

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる．

社会基盤デザイン

31310

Design for Infrastructure

【配当学年】2年前期

【担当者】木村・五十嵐・牛島・勝見・吉井・その他関連教官

【内 容】土木工学（Civil Engineering）は、長年にわたり社会基盤整備と公共空間の創造を通じて、市民工学としての役割を果たしてきた。本講義では、土木工学が「市民工学、環境創生工学、現代総合工学、人類工学、創造工学」であることを、「防災、環境、デザイン、社会とのかかわり、技術者倫理」などのキーワードで解説する。成績評価は、期末試験、レポート等を総合的に勘案して行う（期末試験 70 点、レポート等で 30 点、合計 100 点満点）。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
社会基盤デザイン概説	1	本講義のガイダンスと土木工学に関する最近の話題を紹介する。
土木と防災	2	社会基盤構造物の耐震技術や自然災害への対応策を通して、土木工学が防災に果たす役割を解説する。
土木と環境	2	地盤環境や河川環境の保全と新たな創生法を通して、土木工学が持続可能な社会の実現に果たす役割を解説する。
土木とデザイン	2	都市景観のデザインの考え方や交通渋滞へのソフト的方策を通して、土木技術者のデザインへのかかわりを解説する。
土木技術者の倫理	2	先人の業績（土木遺産）や事例分析を通して、土木技術者の倫理について解説する。
土木と社会	4	外部講師による特別講演と現場見学を通して、土木工学を学ぶことの意義と実社会へのかかわりを解説する。

【教科書】必要に応じて印刷物を配布する。

【予備知識】特に予備知識は必要としない。

【その他】本講義は担当教官によるリレー式講義である。全体の取りまとめは、木村（土木西館 154 号室、kimura@toshi.kuciv.kyoto-u.ac.jp）が担当している。

基礎環境工学 I

31320

Fundamental Environmental Engineering I

【配当学年】2年前期

【担当者】内山巖雄・笠原三紀夫・高岡昌輝・松井利仁・山田春美

【内 容】人間活動に伴って起こる環境に与える影響や環境に関する諸問題を理解すること、ならびに環境工学の基礎を学ぶことを目的とする。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
環境工学概論	1	人間活動と環境影響の変遷、環境保全のための環境基本法、環境基本計画、環境基準等、環境倫理について述べると共に、環境工学概の概要を講述する。
廃棄物	2	一般生活や産業に伴う廃棄物の発生と要因、廃棄物処理技術、廃棄物の抑制等について講述する。
大気環境保全	3	大気の構造、大気汚染問題、地球環境問題の現状、大気環境問題の発生と機構、下層大気、特に大気境界層の気象学、気象条件と大気汚染物質の挙動との関わりについて述べる。また大気環境影響評価（アセスメント）の基礎となる大気拡散モデルの特性について説明するとともに、大気環境保全・管理への応用について述べる。
水環境保全・土壌汚染	3	水環境の構成と機能、水質汚濁の要因と機構、水質変化、河川・湖沼・海域の汚濁と機構、水環境保全、管理技術、土壌汚染の要因と機構等について述べる。
騒音・振動	2	騒音・振動公害の現状、各種騒音・振動源の特徴、騒音レベル、振動レベル等の物理的尺度、および等価騒音レベル、時間率レベル等の変動騒音／振動の評価尺度について述べる。
化学物質のリスク管理	2	多種多様な化学物質の環境リスクとは何か、環境リスク削減のための包括的なリスク管理等について述べる。

【参考書】平成16年度環境白書（環境省） その他担当教官から指示あり

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加があり得る。

資源エネルギー論

31330

Resources and Energy

【配当学年】2年前期

【担当者】楠田、福中

【内 容】華々しく発展してきた技術文明は、多量の金属資源やエネルギー資源の供給によって支えられている。しかし、その発展があまりにも急激であったためにさまざまなひずみが現れ、種々の問題が起こっている。この講義ではこれらの問題について、地球科学、資源統計の立場から考える。成績評価は、期末試験によって行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
いま、なぜ資源・エネルギー問題か	3	資源エネルギーの消費、資源エネルギーの消費と文明の発展、金属・エネルギー消費と社会形態、過去 50 年間の金属資源およびエネルギー資源消費の動き、リサイクルと環境保全
現・近未来におけるエネルギー需給予測と枯渇	2	三つの膨張要因はこれからどのように変わるか、資源統計に基づくエネルギーの需給予測、予測される各国の人口増減・経済発展から推察されるエネルギー需要量、枯渇はどのような形態で訪れるか
炭化水素資源	2	石油、石炭、天然ガス、潜在炭化水素資源
原子力・水力・地熱	2	原子力、水力、地熱
その他の自然エネルギー	2	太陽エネルギー、潮力発電、温度差発電、風力エネルギー
金属鉱物資源	2	火成鉱床、堆積性鉱床

【教科書】西山 孝 「地球エネルギー論」 オーム社

【参考書】西山 孝 「資源経済学のおすすめ」 中公新書 1154 ;
志賀美英 「鉱物資源論」 九州大学出版会

【その他】オフィスアワーは特に設けない。各教官室（楠田 165 号室、福中 462 号室、いずれも工学部 1 号館）を訪ねること。

工業数学B 1

20510

Engineering Mathematics B1

【配当学年】2年後期

【担当者】辻本 諭

【内 容】複素関数論の知識をベースとした計算や解析は理工学のみならずさまざまな局面に登場している。本講義では、複素関数とその微分積分の基礎を解説する。とりわけ、複素関数と実数値関数との著しい相違点、複素関数を扱うことで容易になる実数値関数の微分積分、さらには、複素関数の美しい世界などにポイントをおいて講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
複素変数の関数	2	複素数、複素数平面、複素数の n 乗根、複素数の数列と級数について述べた後、複素変数の関数を導入する。さらに、複素変数の関数の連続性と極限について説明する。
複素微分と正則関数	4	複素変数の関数の微分可能性、および、正則関数を定義し、その必要十分条件としてコーシー・リーマンの方程式を導く。また、基本的な正則関数として、指数関数、三角関数、双曲線関数、対数関数について述べる。調和関数についてもコメントする。
複素積分	3	まず、複素積分を導入してその基本的性質を述べる。続いて、コーシーの積分定理、正則関数の積分表示としてのコーシーの積分公式を解説する。時間が許せば、教科書章末の演習問題にある、最大値の原理や代数学の基本定理への応用について説明する。
テイラー展開とローラン展開	2	コーシーの積分定理を応用して正則関数のテイラー展開を導く。さらに、特異点の周りでのローラン展開について述べる。
留数とその応用	3	特異点の留数を定義し、留数の求め方と留数定理について述べる。さらに、留数定理に基づく複素積分計算、実定積分計算を解説する。最後に、正則関数の等角写像の性質について説明する。

【予備知識】微分積分学

【そ の 他】適宜、小テストやレポートを通じて講義内容の理解を深める。当該年度の授業回数などに応じて授業計画の一部修正がありうる。

構造力学 I 及び演習

30080

Structural Mechanics I and Exercises

【配当学年】2 年前期

【担当者】家村・渡邊(英)・清野・澤田(純)・白土・杉浦

【内 容】構造物に作用する外力、力の性質、断面に生じる力、応力、変位ならびにひずみや変形、断面の幾何学的性質、応力とひずみ、変位の計算法、および柱の座屈について述べる。主として静定構造物を対象とする。成績評価は、期末試験、中間試験、レポート等を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	1	構造物と部材 構造力学の目的と取り扱う範囲 構造力学での仮定 技術者倫理に関連する事例
力の性質	1	外力 外力のモデル化 力のつりあい 静定、不静定および不安定
断面に生じる力	8	自由物体のつりあい 断面力 微小部分の断面力 軸力 曲げモーメントとせん断力 ねじりモーメント 影響線
応力	2	応力：単位断面積あたりに作用する力 応力と座標系
変位と変形	4	変位 変形 ひずみ 曲率とねじり率
断面の性質	2	断面一次モーメント 断面二次モーメント
応力とひずみ	2	フックの法則 断面力と変形 断面係数
変位の計算法	4	引っ張り・圧縮部材 はりのたわみ トラスのたわみ 静定構造と不静定構造
柱・はりの座屈	2	座屈現象 オイラーの座屈荷重 偏心圧縮柱

【教科書】「構造力学 I」渡邊英一・松本 勝・白土博通著、丸善

【予備知識】微積分学 A・B の知識を前提とする。

【その他】6 クラスにわけ、クラス毎に定められた教員により同じ時間帯に授業を行う。オフィスアワーは各教員別に設定し、時間、コンタクト方法等は初回講義時に伝える。

水理学及び演習

30130

Hydraulics and Exercises

【配当学年】2年後期

【担当者】酒井（哲）・瀬津・細田・戸田・牛島・岸田・後藤・角・藤田・山下（隆）

【内 容】各種の土工計画及び水理構造物設計の基礎となる水の運動の力学を流体力学との関連より体系的に講述し、静水力学、流体運動の基礎理論、水の波の基礎理論、粘性と乱れ、次元解析、ならびに管路及び開水路における定常流を取り扱う。演習問題を課し、基礎理論の実際問題への応用を習熟させる。成績評価は、期末試験、中間試験および小試験等を総合的に勘案して行う（期末試験 50 点、中間試験 50 点、小試験等の日常学習の評価 10 点、合計 110 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
水理学概説（第 1 回）	1	水理学について概説し、技術者倫理に関連する事例について解説する。
静水力学（第 2～3 回）	2	静水圧、浮力、浮体の安定 について解説・演習する。
流体運動の基礎（第 4～6 回）	3	連続体の力学、システム法とコントロールボリューム法、連続式、運動方程式、次元解析法 について解説・演習する。
完全流体（第 7～8 回）	2	Bernoulli の定理、二次元非回転流れ について解説・演習する。
水の波（第 9～11 回）	3	微小振幅波（基礎式、浅水波、深水波、長波）、波のエネルギーとその輸送、群速度、定常波 について解説・演習する。
中間試験（第 12 回）	1	
粘性と乱れ（第 13～14 回）	2	変形応力、Navier Stokes の式、層流のせん断応力と摩擦損失、層流と乱流、乱流の Reynolds 応力、乱流の流速分布 について解説する。
次元解析と相似律（第 15 回）	1	水理量と次元解析、パイ定理、相似律について解説・演習する。
管路の定常流（第 16～19 回）	4	エネルギー式、管内乱流の抵抗則、形状損失、サイフォン、管路（単一、並列、管路網）の計算 について解説・演習する。
開水路の定常流（第 20～26 回）	7	エネルギー式、運動量式、水面形方程式とその特性、比エネルギー、比力、跳水、漸変流の基礎式、基本水面形、種々の水面形（スルースゲート、段落ち、横流入ほか）、漸変流の解析法 について解説・演習する。

【教科書】全体としては、指定しない（講義に関しては班によって異なる）。演習は、共通教材（印刷物）を配付する。

【参考書】指定しない。

【予備知識】微積分、線形代数の基礎など、大学教養 1 年次の標準的な数学。

【その他】講義と演習を並行して実施する。オフィスアワーは特に設けませんが、吉田地区の教官については必要に応じて各教官室で対応する（酒井 221 室・瀬津 284 室・細田 216 室・牛島 283 室・岸田 218 室・後藤 222 室・角 272 室）。防災研究所の教官（戸田・藤田・山下）については、講義・演習時にコンタクトの方法を伝える。

土質力学 及び演習

31060

Soil Mechanics I and Exercises

【配当学年】3 年前期

【担当者】大西・岡（二）・嘉門・勝見・小高・三村

【内 容】土の構造とその工学特性の理解のため、土の分類と評価方法、締固めた土の特性、土中における水の動き、土の圧密変形、地盤内応力、土の強度と破壊に関する物理現象を説明し、これらの問題を数理的に取り扱う手法を解説する。また、演習問題を通じて、講義の内容の理解を深める。成績評価は、期末試験、中間試験、レポート等を総合的に勘案して行う。（期末試験 70 点、中間試験+レポート+小試験等で 30 点、合計 100 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
土質力学概説	1	土質力学全般に関し、概説的な解説を行う。また、技術者倫理に関連する事項・事例について解説する。
土の指示的性質	3	土の構造と分類、物理的性質の表現方法とその定量的評価手法について解説し、演習問題を通じてその理解をはかる。
土の透水と土中の水理	5	地盤を流れる水の運動について基本的な現象の説明を行い、この運動を支配するダルシーの法則とその適用について解説する。さらに、各種地盤構造物内における浸透問題を解析的に解く手法について演習問題を利用しながら説明する。
土の圧密と圧縮、地盤内応力と沈下予測	6	土の圧密現象を説明し、これを数理的に取り扱う手法、ならびに粘土の圧密特性を測定するための試験法について解説する。さらに圧密による地盤の沈下予測を行うための解析手法について演習問題を用いて説明する。
中間試験	1	
強度と破壊理論	5	土のせん断による破壊現象の発生機構、ならびにこれに及ぼす土中水の影響を解説する。さらに基礎となる土の強度の考え方とその測定のための試験法について演習問題を利用して説明する。
土の締固め特性	2	土の締固め特性とそれを調べるための試験法について解説し、演習問題を通じてその理解をはかる。
地盤内応力と沈下	3	地上に構造物を構築したときに地中に伝わる応力とそれによる構造物の沈下について、数理的な取り扱いを説明するとともに、その計算方法について演習問題を利用して説明する。

【教科書】岡二三生著：土質力学（朝倉書店）。演習問題集（講義第 1 回目に配布）、その他、必要に応じて印刷物を配布する。

【参考書】岡二三生著：土質力学演習（森北出版）

【予備知識】土質実験（3 年前期）と連動して講義を行う。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室（大西 D352 室、岡 D432 室、嘉門 D174 室、小高 D428 室、勝見 D173 室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。防災研究所教員（三村）については、講義時にコンタクト方法を伝える。

土質力学 及び演習

31620

Soil Mechanics I and Exercises

【配当学年】2年後期

【担当者】大西・岡(二)・嘉門・勝見・小高・三村

【内 容】土の構造とその工学特性の理解のため、土の分類と評価方法、締固めた土の特性、土中における水の動き、土の圧密変形、地盤内応力、土の強度と破壊に関する物理現象を説明する。また、土圧、基礎と支持力、斜面安定など各種地盤構造物の設計に関する基礎的事項を解説する。演習問題を通じてこれらの問題を数理的に取り扱う手法を修得し、講義の内容の理解を深める。成績評価は、期末試験、中間試験、レポート等を総合的に勘案して行う。(期末試験 70 点、中間試験+レポート+小試験等で 30 点、合計 100 点満点)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地盤の成り立ち、地盤と社会基	1	地盤の成り立ちや社会基盤との関わりを解説し、土質力学全般に関する概論とする。併せて、技術者倫理に関連する事項・事例について解説する。
地盤と災害、地盤と環境	1	地盤に関わる災害や環境問題について解説する。また、技術者倫理に関する事項・事例について解説する。
土の指示的性質、応力、締固め	3	土の構造と分類、物理的性質の表現方法とその定量的評価手法について解説し、演習問題を通じてその理解をはかる。また、土の締固め特性とそれを調べるための試験法について解説し、演習問題を通じてその理解をはかる。
土の透水と土中の水理	3	地盤を流れる水の運動について基本的な現象の説明を行い、この運動を支配するダルシーの法則とその適用について解説する。さらに、各種地盤構造物内における浸透問題を解析的に解く手法について演習問題を利用しながら説明する。
中間試験	1	
土の圧密と圧縮、地盤内応力と沈下予測	2	土の圧密現象を説明し、これを数理的に取り扱う手法、ならびに粘土の圧密特性を測定するための試験法について解説する。さらに圧密による地盤の沈下予測を行うための解析手法について演習問題を用いて一部説明する。
変形・強度と破壊理論	2	土のせん断による破壊現象の発生機構、ならびにこれに及ぼす土中水の影響を解説する。さらに基礎となる土の強度の考え方とその測定のための試験法について演習問題を利用して一部説明する。

【教科書】岡二三生著：土質力学（朝倉書店）。演習問題集（講義第1回目に配布）、その他、必要に応じて印刷物を配布する。

【参考書】岡二三生著：土質力学演習（森北出版）

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室（大西 D352 室、岡 D432 室、嘉門 D174 室、小高 D428 室、勝見 D173 室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。防災研究所教員（三村）については、講義時にコンタクト方法を伝える。

計画システム分析及び演習

31340

Systems Analysis and Exercises for Planning and Management

【配当学年】2年後期

【担当者】谷口・多々納・宇野・吉井・倉内・松島

【内 容】 社会機構の高度化、価値観の多様化に伴って計画システムの考え方がますます重要となってきた。本講義では、計画システムの基礎概念およびシステム設計のための手法としての最適化計画手法および待ち行列理論について体系的に講述し、あわせてこれらの適用法に関する演習を行う。成績評価は、期末試験、レポートなどを総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
計画システム 分析概説	1	計画システムの基礎概念について概説し、技術者倫理に関連する事例について解説する。
線形計画法	7	最適化手法の基本的手法である線形計画法について講述する。まず制約条件と目的関数の定式化について説明し、ガウスジョルダンの消去法、シンプレックス法、双対シンプレックス法、限界価値、感度分析、輸送問題について理解させる。
非線形計画法	8	制約がない問題に対する古典的微分法、等式制約問題に対するラグランジュ乗数法、不等式制約問題に対するキューン・タッカー条件に関する理論を説明し、最急降下法、ニュートン法、直線探索法などの計算方法を述べ、非線形最適化問題の解法を理解させる。
動的計画法	6	複雑なシステムの最適解を多段階に決定していく手法である動的計画法について講述する。ダイナミックプログラミングの解法、多段階における最適決定法について理解させる。
待ち行列理論	4	最適化を実施するための重要な手法の一つとして、待ち行列理論を取り上げ、その基礎理論について解説した後、定常解の導出方法について講義する。

【教科書】飯田恭敬編著：土木計画システム分析（最適化編）（森北出版,1991）

演習は、共通教材（プリント）を配布する。

【参考書】指定しない

【予備知識】総合人間学部開講の微分積分学を前提としている。

【その他】オフィスアワーは各教員別に設定し、時間、コンタクト方法は、各担当教員の初回講義時に伝える。

環境衛生学

30140

Environmental Health

【配当学年】2年後期

【担当者】内山、松井（利）

【内 容】環境衛生学の概念を理解すると共に、健康に深い関わりのある環境要因（大気環境、水環境、廃棄物、各種有害化学物質のリスク、騒音、温熱など）について、環境と健康の両面から講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
環境衛生学概論および大気環境と健康	3	環境衛生の歴史、環境と健康の関わり合い、呼吸器系の構造と機能、大気汚染問題とそれに起因する健康影響、環境基準について講述する。
廃棄物とダイオキシン類	2	廃棄物問題と環境について、特にダイオキシン類の健康影響について講述する。
水環境と健康	1	水環境の評価、飲料水基準、水に起因する疾患等について講述する。
音と振動	3	聴覚およびその機能、騒音の定義、騒音と振動の尺度と単位、健康影響などを講述する。
地球環境問題	1	地球環境問題のうち、関連する条約、地球温暖化と健康影響、温熱環境と健康に関して講述する。またオゾン層の破壊、酸性雨についても講述する。
化学物質と環境リスクおよびこれからの環境問題とリスクコミュニケーション	3	環境に起因する健康リスク、発がん性有害化学物質の規制に関するリスクの概念の導入、許容リスクレベルについて講述する。公害問題の解決とは異なり、これからの環境問題の解決に重要となるリスクコミュニケーションについて講述する。

地球工学科

物理探査学

31350

Geophysical Prospecting

【配当学年】2年後期

【担当者】芦田・松岡(俊)・菅野

【内 容】地下を診る技術である各種の物理探査法について、その探査原理、データ取得技術、データ処理技術および解釈方法について講述するとともに、エネルギー・資源分野、地盤工学分野、土木工学分野への適用についても紹介する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
物理探査とは	4	
データ処理技術	4	
データ解析技術	2	
エネルギー・資源分野への適用	2	
地盤工学分野への適用	1	
土木分野への適用	1	

【参 考 書】佐々・芦田・菅野：建設・防災技術者のための物理探査（森北出版）

材料学

30240

Construction Materials

【配当学年】3 年前期

【担当者】宮川豊章・服部篤史

【内 容】構造用材料を対象として、材料一般のミクロな構造からマクロな物性の取扱いについて略述し、さらに、コンクリート、鋼材、高分子材料、複合材料などの主要構造材料の力学的性質、化学的性質、取扱い、試験方法を中心とした各論を講述する。

成績評価は、期末試験、レポート等を総合的に勘案して行う（期末試験 80 点、レポート 20 点、合計 100 点満点）。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
材料概論	1	材料の分類、土木材料の歴史、技術者倫理に関連する事例解説
結晶構造	1	結晶質、非結晶質、結晶結合、結晶構造、欠陥、力学的特性、すべり、転位
金属材料	1	鉄系金属、高炉、精錬、高炉スラグ、変態、熱処理、非鉄金属、金属系新素材
腐食・防食	1	耐久性、腐食反応、劣化メカニズム、中性化、塩害、第 1 種防食法、第 2 種防食法
セメント	1	セメントの種類、化学成分、組成化合物、水和反応、水和熱、低アルカリ型セメント、混合セメント
混和材料	1	混和剤、減水剤、AE 剤、凍害、混和材、ボゾラン反応、潜在水硬性、高性能減水剤
骨材・水	1	含水状態、塩化物イオン、塩化物総量規制、アルカリ骨材反応、アルカリ量
フレッシュ コンクリート	1	ワーカビリティ、レオロジー、コンシステンシー、材料分離、配合設計
硬化コンクリート	1	圧縮強度、水セメント比、引張強度、曲げ強度、耐久性、試験方法
コンクリートの非 破壊試験	1	表面硬度法、超音波法、併用法、放射線透過法、赤外線法、自然電位法、分極抵抗法
各種コンクリート	1	繊維補強コンクリート、MDF セメント、高流動コンクリート、無機系新素材
歴青材料	1	アスファルト、ストレートアスファルト、ブローンアスファルト
高分子材料	1	樹脂、ゴム、表面保護工、繊維、連続繊維補強材、高分子系ポリマーコンクリート、新素材
期末試験	1	定期試験期間中に行う。

【教 科 書】岡田清、明石外世樹、小柳治共編：土木材料学（国民科学社）

【参 考 書】藤原忠司、長谷川寿夫、宮川豊章、河井徹編著：コンクリートのはなし I・II（技報堂出版）

【予備知識】総合人間学部開講の、基礎物理化学を履修しておくことが望ましい。

【そ の 他】オフィスアワーは特に設けない。随時、各教員室（宮川 410 号室、服部 412 号室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。

水文学基礎

30300

Fundamentals of Hydrology

【配当学年】3年前期

【担当者】池淵・椎葉・寶・立川

【内 容】地球表面付近の水の循環過程，すなわち，蒸発散，降雨，降雪，遮断，浸透，地表面および土壌表層・地中での雨水流動，河道網での流れなどの現象を理解し，それを適切にモデル化していくための方法を講述して，降水と流出の予測，河川流域管理のための基礎を明らかにする。成績は，期末試験，レポート等を総合的に勘案して評価する。期末試験 70 点，レポート及び小試験等で 30 点，合計 100 点満点とする。

【授業計画】

項目	回数	内 容 説 明
水文学とは何か	1	水文学の学問領域，地球工学との関わり，その意義について解説する。また，技術者倫理に関する事項を解説する。
地球上の水の分布と放射	1	グローバルなスケールでの水の分布，放射を含めたエネルギーの伝達・循環の機構を解説する。
降水機構と観測	1	降水機構を概説し，アメダス，レーダ雨量観測法を述べる。
計画降雨	1	水文統計学について概説し，土木構造物の設計量の一つである計画降雨の決定法を解説する。
降雨遮断・浸透	1	樹木による降水の遮断，凹地貯留，雨水浸透の機構を解説する。
斜面流出機構	2	kinematic wave モデルを誘導しその解析法を紹介し，kinematic wave モデルを基礎とした斜面流出機構のモデル化について解説する。
蒸発散	2	蒸発散現象を理解するための大気境界層の理論，蒸発散量推定のための理論・経験公式を解説する。
融雪機構	1	融雪機構を解説し，融雪流出のモデル化の方法を述べる。
河道網系のモデル化	1	河道網系の雨水の流出を追跡する方法を解説する。
降雨・流出予測	1	レーダ雨量計データを用いた降雨予測手法，カルマン・フィルターを用いた実時間流出予測手法を解説する。
流出モデル一般	1	わが国及び外国でよく用いられている流出モデルを解説する。また，河川流域管理に関連する技術者倫理に関する事例について解説する。

【教科書】教科書は使用しないが，毎回の講義ごとに資料を配布し，それに基づいて講義を行う。

【参考書】水文・水資源ハンドブック（朝倉書店）

【予備知識】確率統計解析及び演習（2 回生前期）、水理学及び演習（2 回生後期）を履修していることが望ましい。

【その他】オフィスアワーは設けない。質問などがある場合は，本部教員（椎葉）については工学部 5 号館 212 室を訪れること。防災研究所教官（池淵・寶・立川）については，講義時にコンタクト方法を伝える。

測量学及び実習

30400

Surveying and Field Practice

【配当学年】3年前期

【担当者】中北・吉井・小野（徹）・菊池・出村・柄谷・畑山

【内 容】測量学に関する講義と実習を行う。講義では様々な測量技術、測量機器の仕組み、観測データにおける誤差の扱いと調整方法について講述する。実習では、測量機器を用いて野外で測量を行い、測量機器の扱いや測量の方法を学ぶ。さらに、得られたデータを整理して調整計算を行うことで、観測情報についての理解を深める。成績評価は、期末試験、実習レポート、出席状況等を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
測量学概説	3	測量学の目的、歴史、内容について概説するとともに、測量技術の適用事例や最新の測量技術動向を紹介する。また、実習の予定と注意点について説明する。さらに、測量における技術者倫理について解説する。
距離測量と角測量	4	測量技術の基本である距離測量と角測量の方法を学ぶ。また、実習を通して測量機器の設置方法（整準、求心）とセオドライトを用いた角測量技術を体得する。
基準点測量	5	基準点測量のための測量計画について概説するとともに、代表的な基準点測量法である三角測量、トラバース測量について詳説し、野外における実習を実施する。
水準測量	3	測点の標高を定めるための水準測量の方法とデータの調整法について説明し、野外における実習を行う。
平板測量と地形測量	4	測量区域の細部を明らかにするための平板測量、地形測量の方法について述べるとともに、その成果物である地形図の特性、測量と空間の認識との関連性について解説する。あわせて実習を行う。
誤差論	2	誤差に関する基本的な概念を説明するとともに、誤差伝播の法則、一般算術平均値の考え方を説明する。
最小2乗法	7	測量データの処理の基本となる最小2乗法の考え方とその計算方法について演習を交えながら習熟させる。
調整計算	4	三角測量、トラバース測量データの調整法を解説し、実習で得られたデータを用いた計算演習、コンピュータプログラミングによる厳密計算を行う。
写真測量	4	写真測量の概要を説明するとともに、実体視、反射実体鏡による航空写真の判読に関する実習を行う。
GPS 測量	3	GPS の原理ならびに GPS を使った測量技術について講義する。

【教科書】森忠次著：改訂版 測量学1 基礎編（丸善）

【予備知識】線形代数学、数理統計学

【その他】オフィスアワーは特に設けない。実習レポートなどの提出先については、第1回の講義の際に配布する予定表及びホームページに記載する。

計画システム分析 II

30420

Systems Analysis II for Planning and Management

【配当学年】3年前期

【担当者】多々納・中川（大）

【内 容】 社会機構の高度化、価値観の多様化に伴って計画システム的な考え方がますます重要となってきたが、計画システムの基礎概念及びシステム設計のための手法としてのORモデルなどについて体系的に講述する。成績評価は、講義時に行う小テストと期末試験の結果を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
グラフ理論とネットワーク	6	道路網、上下水道網、施工工程管理などの解析に用いられているグラフ理論、ネットワーク理論について講述する。グラフ理論の基本的用語と意味、行列表現、及びPERT、CPMなどのネットワークによる工程管理手法について理解させる。
評価と意思決定	7	複数の計画案を比較評価して、どの案が最も望ましいかを判断するために用いられる技法として、費用便益分析、ゲーム理論、多基準分析などについて講述する。

【教科書】飯田恭敬編著：土木計画システム分析 -最適化編- (森北出版,1991)

【その他】オフィスアワーは特に設けないが、講義時に教員へのコンタクト方法を伝える。

工業数学 B2 (土木工学コース)

20610

Engineering Mathematics B2

【配当学年】3年前期(土木工学コース) 【担当者】田村・西村(直)

【内 容】フーリエ解析と、その応用としての偏微分方程式の解法を取り扱う。周期関数に対するフーリエ級数、非周期可積分関数に対するフーリエ変換、及びそれらの特性に習熟し、種々の工学・数理物理学の問題への応用力を養うことを目的とする。また、現代的な取扱や、数値解析との関連についても講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序	1	フーリエ解析とは何か、どのような応用があるのかなど解説し、必要な予備知識を整理する。
フーリエ級数	3	周期関数は三角関数の無限級数に展開され、これをフーリエ級数と呼ぶ。ここではフーリエ級数の収束等に関する理論的な話題を取り上げるとともに、具体的な計算も行なって理解を深める。
フーリエ変換	4	非周期関数のフーリエ解析にはフーリエ変換が登場する。ここでは、まず、あるクラスに属する関数は実際にフーリエ積分で表される事を証明した上で、フーリエ変換の種々の性質を示す。更に、具体例を通して計算力を養う。また、ラプラス変換をフーリエ変換の立場から論ずる。
偏微分方程式への応用	4～6	2階の偏微分方程式(Laplace 方程式、波動方程式、熱方程式等)の(初期値)境界値問題の解を具体的に構成する際のフーリエ級数およびフーリエ変換の適用例を紹介する。
数値フーリエ解析	1	計算機を用いてフーリエ解析を行なうための基本的な手法である高速フーリエ変換(FFT)について解説する。

【予備知識】微分積分学、線形代数学、工業数学 B1 (関数論)。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

工業数学 B2 (資源工学コース)

20611

Engineering Mathematics B2

【配当学年】3 年前期 (資源工学コース) 【担当者】宅田・松岡 (俊)・菅野

【内 容】連立 1 次方程式の数値解法、フーリエ変換、ラプラス変換、補間と近似、偏微分方程式の数値解法についての基礎理論。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
連立 1 次方程式と非線形方程式の解法	3	連立 1 次方程式の解法のうち、各種の直接法と反復法、直説法と反復法の比較およびこれらの解法の応用について説明する。また、非線形方程式の解法のうち、ニュートン・ラフソン法および 2 分法に関して、その応用と解法について講述する。
補間と近似	2	離散的に存在するデータを多項式を用いて近似する方法、すなわち関数の多項式近似について述べる。具体的には、ラグランジュの補間法など、いくつかの手法を解説する。
フーリエ変換	2	フーリエ変換の原理、法則および実例について講述する。
ラプラス変換	2	ラプラス変換の原理、法則および実例について講述する。
偏微分方程式の数値解法	4	ラプラス方程式に関して変数分離によるその一般解および有限差分法について解説する。さらに、拡散方程式の差分法について解説する。

【参 考 書】小門・八田：数値計算法 (森北出版)

【予備知識】総合人間学部開講の微分積分学、線形代数学および地球工学基礎数理、工業数学 B1 を前提としている。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

連続体の力学

31170

Continuum Mechanics

【配当学年】3年前期

【担当者】岡二三生・細田 尚

【内 容】テンソル解析の基礎，連続体の変形と運動および保存法則の定式化，固体および流体の構成則の考え方，初期値・境界値問題の解法と変分原理などの基本的内容を講述の後，地球工学科に関連する応用例として，固体の変形解析と波動の伝播，熱対流とローレンツ・カオスの初歩などのトピックスを解説する．成績評価は，期末試験と授業中に行う小テスト等を総合的に勘案して行う．（おおよそ期末試験 80 点，小テスト 20 点で合計 100 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
ベクトル・テンソル解析の基本的事項	2	ベクトル・テンソルの定義，積分定理，移動する体積の時間微分公式，共変・反変基底ベクトルとテンソルのダイアディック表現および成分の変換則などの連続体力学を理解するために必要となる基本的事項を説明する．
応力とひずみ，変形速度テンソル	3	連続体の運動と変形を記述するための基本的事項として，応力テンソル，ひずみおよび変形速度テンソルの定義とそれらが満たすべき条件，各テンソルの不変量と成分の変換則，モールの円などについて説明する．
保存則の数学的表現	2	移動する連続体の領域内での質量，運動量，角運動量，熱力学の第一，第二法則の数学的表現を説明し，局所的な保存則の表示を導く．
固体・流体の構成則	3	連続体の構成則が満たすべき条件（物質客観性の原理など）と弾性体，粘弾性体および粘性流体の構成則を示し，単純な場での具体的応用例を説明する．
変分原理と有限要素法	2	実際の連続体の運動と変形の境界値問題を解くための変分原理とその代表的解法としての有限要素法について述べ，その具体例を示す．
固体・流体力学の具体的応用例	3	固体の変形解析と波動の伝播，遅い粘性流とストークスの抵抗法則，熱対流とローレンツ・カオスの初歩など，基本的な現象を題材として，連続体力学の具体的な応用について講述する．

【教科書】講義資料としてプリントを配布する．

【参考書】Y. C. ファン著（大橋・村上・神谷共訳） 連続体の力学入門，培風館

【予備知識】1，2 回生時に学ぶ微分積分，線形代数の基礎知識

【その他】オフィスアワーは特に設けませんが，質問などは必要に応じて各教官室で対応する．（岡 432 号室，細田 216 号室）

構造力学 III

30260

Structural Mechanics III

【配当学年】3年前期

【担当者】小野(紘)・渡邊(英)・五十嵐・宇都宮・清野・白土・阿南・小野(祐)・高橋(良)・永田・八木

【内 容】コンピュータを利用した構造解析法として、マトリクス法および有限要素法などの数値解法の基礎を学ぶ。トラス・はり・ラーメン構造などを対象とした剛性方程式の誘導と解法・応用について講述するとともに、計算機を用いた演習を通じて実際的な数値解法の習熟を図る。成績評価は、期末試験とプログラミング演習レポート等を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
マトリクス構造解析の基礎	2	構造要素のつりあい式や変位適合条件式をマトリクス表示する方法について概説する。
平面トラスの解析	2	平面トラスを対象としたマトリクス構造解析の考え方について述べる。要素剛性マトリクスの導出、全体剛性マトリクスの算出と具体的な剛性方程式の構成の手順、およびその数値的な求解にあたって留意すべき点を講述する。
平面骨組みの解析	2	平面骨組み・ラーメン構造を対象としたマトリクス構造解析について述べる。要素剛性マトリクスの導出、剛性方程式の構成と数値的解法に至るまでの一連の手順と考え方について説明する。
マトリクス構造解析の応用と有限要素法	2	マトリクス構造解析の種々の問題への応用を紹介するとともに、弾性体の2次元問題などの例を題材に、より進んだ構造解析手法の基本的考え方を理解させる。
プログラミング演習	5	構造解析に必要な基礎的な数値演算法、およびマトリクス構造解析に関して、計算機プログラミング演習を行う。

【予備知識】構造力学 I 及び演習, 構造力学 II 及び演習 の知識を前提としている。

【そ の 他】2 クラスに分け、同一の時間帯に授業を行う。

構造実験

30270

Structural Mechanics, Laboratory

【配当学年】3年前期

【担当者】田村・西村(直)・渡邊(英)・五十嵐・宇都宮・清野・白土・杉浦・阿南・小野(祐)・永田・八木・吉川

【内 容】構造物の力学特性を実験的に明らかにする基礎理論、次元解析、相似律について述べ、力、変形、歪に関する実験(基礎計測)を行った後、座屈、風洞、振動、アコースティックエミッションの何れかのテーマについて、応用的な実験を行う(応用計測)。成績評価は、実験への参加状況と実験レポートを総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
講義	3	構造実験の意義を述べ、ついで構造力学と構造実験の関わりを講述する。具体的には、構造力学の諸法則の関係における相似則、および、物理量の次元解析の基礎について述べ、モデル実験の意義を説明する。
基礎計測	5	片持梁(あるいは他端固定の片持梁)の静的・動的な模型実験を通して、構造力学におけるモデル実験の手法と計測技術の基礎理論を講述するとともに、実験を通してその意義を体得させる。
応用計測	6	以下の各項目のうち、ひとつを選択する。
座屈 (応用計測)		柱、梁、シェルの座屈について述べ、それぞれの特徴的な座屈について小型実験を行い実験値と理論値とを比較する。
風洞 (応用計測)		構造物の空力特性、風洞実験法の紹介の後、円柱、矩形柱の空力現象に関する実験と、応答解析をおこなう。
振動 (応用計測)		1、2自由度の振動模型の自由振動および調和波外力による定常強制振動実験の計測から、固有振動数等の振動系の基本パラメータの検出を行う。模型実験による共振曲線、位相曲線と理論解との比較から、周波数領域における考察をすすめる。制振装置による構造物の制振効果についても観察を行う。
アコースティックエミッション (応用計測)		アコースティックエミッション(AE)の工学への応用を説明するとともに、AEを用いた破壊源の探査法に関する実験を行う。

【教科書】授業中に配布する。

【予備知識】構造力学 I 及び演習、構造力学 II 及び演習 の知識を前提とする。

【その他】オフィスアワーは各教員別に設定し、時間・連絡方法等は授業時に伝達する。

水理学 II

30310

Hydraulics II

【配当学年】3 年前期

【担当 者】細田・後藤

【内 容】水理学 1 及び演習を前提として、特異点理論の応用を含んだ開水路定常流の解析法、管路の非定常流、洪水流などの開水路の非定常流、水路湾曲部の局所流（二次流）と固定砂州の形成、湖沼の環境水理、地下水と浸透層内の流れ、土砂水理学とその応用など、水工学に係わる分野で必要とされる基本的事項を解説する。成績評価は、期末試験や授業時に行う小テスト、レポート等を総合的に勘案して行う。（おおよそ期末試験 80 点，小テストとレポート 20 点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
開水路の定常流 (続)	1	水理学 1 で学んだ開水路定常流の応用として、突起を越える流れを解説する。突起上で限界水深と擬似等流水深が交差し、鞍形点に分類される特異点が生じることを示し、特異点から上下流に水面形を追跡する方法を解説する。
管路の非定常流	2	流体の圧縮性と非圧縮性を仮定した管路非定常流の基礎式を誘導し、その応用例として古代と現代の水時計、地下河川や水力・火力発電所導水路、放水路系のサージングおよび水撃波現象について解説する。
開水路の非定常流	3	1 次元開水路非定常流の基礎式を有限体積法の立場から誘導する。基礎式の特性格線とその上で成立する関係式を導き、境界条件を考慮して流れを解析する方法、および同種の特性格線の交差として発生する段波と衝撃条件を示す。さらに、特性格線法の数値解析の実際を解説し、ダム破壊流れや洪水流解析に適用する。
局所流	1	開水路湾曲部の流れを中心に解説する。平面的流速分布の自由渦から強制渦的分布への変化、断面内 2 次流の発生過程、および河川湾曲部の河床形状との関係を、運動方程式を単純化した簡易解析により説明する。
湖沼の環境水理学	1	琵琶湖北湖を対象に、その水温・水質の季節変化について概説し、湖沼の水質環境を考える上で重要となる密度流現象（例えば湖面冷却により生じる熱対流や流入河川水による密度流）の解析法や解析結果をアニメーションを用いて説明する。
浸透層内の流れ	3	地表層、浸透性岩盤内あるいは海底地盤内などの流れの基本的関係、定常流れ、および非定常流れの基礎理論と応用例を解説する。
流砂とその水理	3	掃流砂と浮遊砂を有する土砂流の基本的事項、河川の洗掘と堆積、海浜における土砂輸送といった流体と砂の混った流れの水理学的性質などの移動床の水理とその応用を解説する。

【教 科 書】講義資料としてプリントを配布する。

【予備知識】「水理学 1 及び演習」及び「情報処理及び演習」の単位を取得していることを前提としている。

【そ の 他】オフィスアワーは特に設けないが、必要に応じて各教官室で対応する。（細田 216 号室，後藤 222 号室）

海岸海洋工学

30330

Coastal and Offshore Engineering

【配当学年】3年前期

【担当者】酒井（哲）

【内 容】最初に最近の人工海浜での事故の話題から海浜変形、漂砂、海浜流、海の波の変形、予知、不規則波に関して、次にノリ不作問題の話題から海岸生態系に関して、さらに関西国際空港建設の話題から、波の力、津波、高潮、潮汐、海底地盤の波浪応答に関して述べる。成績評価は期末試験によって行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
話題1	1	最近の人工海浜陥没事故と人工海浜建設の本来の目的の紹介をして、海岸海洋工学特に海岸侵食問題への導入をするとともに、技術者倫理についても述べる。
海浜変形	1	海岸侵食など海浜変形の実態について述べる。
漂砂	1	海浜変形を起こす海浜流および海の波による海底土砂の移動機構を説明する。
海浜流	1	海の波によって海岸付近で発生する沿岸流について述べる。
伝播に伴う海の波の変形	2	海浜流を引き起こす海岸付近での海の波の水深変化による変形機構を説明する。
海の波の予知、不規則波	1	海岸にやってくる海の波が風によって発生、発達する機構を説明するとともに、不規則な波の工学的扱いについて述べる。
話題2	1	有明海でのノリ不作問題を例として、海域環境問題を紹介する。
海岸生態系	1	海域環境問題のうち、特に海岸での生態系と開発行為の関連及び人工干潟、人工磯浜について述べる。
話題3	1	関西国際空港建設事業を紹介して、設計で考慮しなければならない外力や海底地盤の波浪応答の重要性を述べる。
構造物に働く波の力	1	特に海の波が構造物に及ぼす力に関して述べる。
津波、高潮、潮汐、構造物による海の波の変形	1	構造物に関係する他の外力として津波、高潮、潮汐に関して概説するとともに、構造物による波の変形についても述べる。
海底地盤の波浪応答	1	海の波によって海底地盤がどのような応答をし、その支持力にどのような影響を与えるかを概説する。

【教科書】酒井哲郎著：海岸工学入門（森北出版）

【参考書】なし

【予備知識】水理学及び演習（2年後期）を履修していることが望ましい

【その他】オフィスアワーは特に設けないが、担当教官室（工学部5号館220室）を訪れること

土質実験

30360

Soil Mechanics, Laboratory

【配当学年】3年前期

【担当者】勝見・岸田・木村・小高・澤田（純）・西山・三村・稲積・乾・上原・木元・小林（俊）・飛田・本田

【内容】各種地盤構造物を設計する際に必要となる地盤ならびに土質に関する情報を得るための調査・試験法を実習により習得させる。実験内容は、平行して行われる土質力学Ⅰ及び演習（3年前期）と連動し、土質力学の講義内容を確認する形で行われる。成績評価は、レポートと平常点により行う。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
実験： 物理試験	1	ふるい分け試験による砂の粒度分布、塑性・液性限界試験による粘土のコンシステンシー特性の測定を行い、土の物理特性の評価法に関する理解をはかる。
実験： 締固め試験	1	突固めによる土の締固め試験を行い、土の締固め特性、ならびに試験結果の実施工への応用についての理解をはかる。
実験： 透水試験	1	定水位透水試験を行うことにより、土中の水の流れがダルシーの法則に従うことを確認し、土の透水係数の測定法の理解をはかる。
実験： 透水模型実験	1	地盤内浸透に関する模型実験を行い、浸透水の流れに関する理解をはかるとともに、流線網解析により土中の浸透水量の予測を行う。
実験： 圧密試験	1	海底から採取した自然粘土を用いて標準圧密試験を行い、粘土の圧密特性を確認するとともに、粘土地盤の圧密沈下予測に必要な土質パラメータの計測手法を習熟させる。
実験： 一軸圧縮試験	1	粘土試料を用いた一面せん断試験を行い、土のせん断破壊現象の観察、ならびに試験より得られる土質パラメータの意味の考察を行う。
実験： 一面せん断試験	1	砂の一面せん断試験を行い、土の強度の拘束圧依存性、ならびに破壊基準として摩擦則が成立することを確認させる。
実験： 地盤調査	2	標準貫入試験と弾性波探査試験を実施し、測定方法の理解をはかるとともに試験から得られる地盤パラメータの意味とその地盤構造物の設計・施工への応用について考察させる。
演習問題	3	土構造物の設計に際して行われる土質実験とそこから得られる土質パラメータの設計上での利用方法を理解するための演習問題を行うことにより、土質実験の位置づけを明確にする。
特別講演	1	土質実験の現場適用事例等の講演により、土質実験の位置づけについて理解と認識を深める。

【教科書】地盤工学会編：土質試験－基本と手引き－（初回のガイダンスで販売する）。その他、必要に応じて印刷物を配布。

【参考書】地盤工学会編：土の調査実習書

【予備知識】土質力学Ⅰ及び演習（3年前期）と連動して講義を行う。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室を訪れること。防災研究所教員については、講義時にコンタクト方法を伝える。

交通システム工学

30430

Transportation Systems Engineering

【配当学年】3年前期

【担当者】飯田、北村（隆）

【内 容】社会的、経済的活動を支える道路交通の安全と円滑を促進するための調査、計画、運用に関する方法論を講述する。成績評価は、レポートと期末試験の結果を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
総論	1	交通の役割、交通工学の範囲、発展経緯
道路交通の計画	2	道路交通の現状、問題と対策法、計画プロセス
交通の調査	1	交通調査の目的、道路交通流の調査法、道路交通の特性、パーソントリップ調査
交通需要の推定方法	3	交通需要推定の考え方、段階推定法
道路交通流の理論	3	交通流の特性、交通流モデル、道路の交通容量
道路の設計と計画	1	道路の機能と種別、設計基準、断面構成、線形、路線計画
交差点	2	交差点の種別と形状、平面交差点の交通容量、交差点の交通処理、交通信号制御

【教科書】佐佐木綱監修、飯田恭敬編著：交通工学 (国民科学社)

【その他】オフィスアワーは特に設けないが、講義時に教員へのコンタクト方法を伝える。

弾性学及び演習

30180

Fundamental Theory of Elasticity and Exercises

【配当学年】3年前期

【担当者】斎藤・朝倉・村田

【内 容】弾性学の基礎と資源工学で取り扱う弾性学の問題に重点をおき、応力とひずみ、変位、これらの中に成立する関係式、弾性基礎式と境界条件式、応力関数による2次元問題の解析などについて講述し、演習を行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
弾性学について	1	弾性学が目的とするもの、力学体系の中の弾性学の位置、弾性学の歴史、弾性学の前提となる仮定などについて述べる。
応力、ひずみ、変位	8	弾性問題の記述に用いられる応力、ひずみ、変位についてそれらの定義、座標変換、各種の表現法、ひずみと変位の関係、応力とひずみの関係とそれに用いられる各種の弾性定数、極座標系での表現などについて講述し、これらの事項に関する演習を行う。
弾性基礎式と境界条件	6	弾性問題を解くための弾性基礎式となる応力の釣合式、変位の方程式及び適合条件式、また境界条件式を導き、これらを解く一般的な手順について述べる。また、サンブナンの原理や弾性問題の解の唯一性、極座標系での弾性基礎式の表現などについて講述し、これらの事項に関する演習を行う。
応力関数による2次元問題の解析	5	Airyの応力関数を用いた、体積力が作用しない2次元問題の応力と変位の解析法を示し、平面重調和関数となる応力関数を用いて、 x y 座標系での種々な応力関数とそれらが表現できる境界条件について述べ、演習を行う。
極座標系での応力関数による解析	5	極座標系で記述された2次元問題への応力関数の適用と、応力と変位の解析法を示し、極座標系の平面重調和関数となる応力関数を用いてそれらが表現できる境界条件について述べ、演習を行う。
体積力を伴う場合の解析	2	体積力を伴う場合の解析法について述べ、演習を行う。

【教科書】中原：応用弾性学（実教出版）

【予備知識】微分積分学、線形代数学を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

材料試験法

30230

Testing of Materials

【配当学年】3年前期

【担当者】塚田

【内 容】土木建築材料や工業材料の物理的および力学的性質について、使用目的に応じた必要な情報を得るために行う各種試験法について、その意義と原理を概説し、材料試験を実施するに当たって特に留意すべき点を述べる。また、既存の建造物や設備や機械などの保守検査に用いられる非破壊試験法についても言及する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
材料試験の種類と意義	2	材料試験の一般的な意義を説明し、材料試験の種類とそれぞれの特徴について概説する。さらに、試験機と試験片の互いに満たすべき条件や、力の発生機構と変位の測定方法について講述する。
引張試験と圧縮試験	3	引張試験法の留意すべき点や記録の解釈などについて、鋼材の引張試験を例に取って説明する。さらに、圧縮試験法について、その留意すべき点を説明し、岩石の剛性試験についても講述する。
その他の静的試験	2	曲げ試験、せん断試験、および振り試験について、それぞれの原理と留意点および特徴を述べる。各種硬度試験についても講述する。
動的試験	3	測定が比較的短い時間に終る衝撃試験や、時間のファクターに依存したり影響されたりする物理特性を試験する方法について解説する。また、試験時間の長い疲労試験、クリープ試験を、広い意味の動的（時間依存）試験として、ここに含めて講述する。
非破壊検査	4	非破壊試験の意義と種類について概説し、放射線、超音波、電気、磁気などを使用する方法について、それぞれの特徴と適用対象および原理と装置を講述する。

【参 考 書】必要に応じてプリントを配布する。

【予備知識】弾性学，構造力学。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

物理化学基礎

31180

Physical Chemistry

【配当学年】3年前期

【担当者】石井, 福中

【内 容】この講義では、地球環境科学や資源エネルギー、材料プロセスなどに見られる化学平衡、反応熱、自由エネルギーの概念などの熱力学の基礎、電気化学、水溶液イオン平衡、拡散、吸着、化学反応速度などの物理化学基礎理論について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
熱力学第1法則、第2法則および第3法則	3～4	仕事と熱の定義、熱容量、エンタルピー、状態量、理想気体への第1法則の適用について説明する。さらに可逆過程と不可逆過程、カルノーサイクル、エントロピー、自由エネルギーの諸項目について解説する。
状態変化、状態図と化学平衡	3	相図と相境界、溶液、化学ポテンシャル、活量について説明する。また、相律と2成分系状態図について解説する。更に、化学平衡、平衡定数について解説し、平衡定数の温度変化やエリンガム図について述べる。
平衡電気化学と水溶液イオン平衡	3～4	溶液中のイオンの熱力学的性質、イオンの活量、Debye-Huckelの極限法則、化学電池、標準還元電位、溶解度積と溶解度について述べる。水溶液イオン平衡については適宜、プリントを使用する。
化学反応速度と動的電気化学	3	イオン輸送と拡散、輸率について触れた後、化学反応速度論の初歩について述べる。均一系反応と不均一系反応の違い、反応次数、積分型反応式、半減期、アレニウス式、律速段階、定常状態について説明する。衝突理論、活性錯体、Eyring式、ラングミュア吸着等温式、電気化学ポテンシャル、過電圧、Butler-Volmer式について簡単に触れる。

【参考書】アトキンス「物理化学(上)(下)」第6版, 千原秀昭, 中村亘男訳, 東京化学同人(2001)を中心に講義を進める。材料関係に興味があればラゴーニ「材料の物理化学1, 2」寺尾光身監訳, 丸善(1996)を参照

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略, 追加がありうる。

伝熱学

31190

Heat Transfer

【配当学年】3年前期

【担当者】石井・宅田・藤本

【内 容】熱伝導，熱伝達および熱放射による熱の移動に関連する基礎的事項の講述

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
熱伝導の基礎 と定常熱伝導	2	フーリエの法則と熱流束，熱伝導方程式の誘導 1次元系，軸対称系および球座標系の定常熱伝導問題（積層板や積層円筒の場合も扱う）
非定常熱伝導	3	ラプラス変換法とフーリエ変換法に基づく偏微分方程式の解法の基礎，ラプラス変換法に基づく非定常熱伝導方程式の解（半無限固体の接触熱伝導の問題などが含まれる），フーリエ変換法に基づく非定常熱伝導方程式の解
平板の場合の 層流熱伝達	1	平板に沿う層流熱伝達を支配する方程式系の誘導，速度分布と温度分布の解
平板の場合の 乱流熱伝達	3	平板に沿う乱流境界層の摩擦抗力係数からの局所および平均ヌッセルト数の定式化，平板上の熱流束一定のときのヌッセルト数，非伝熱区間のある場合のヌッセルト数の補正
円管の場合の 熱伝達	3	円管内流れにおける助走区間，発達した流れの領域における表面温度一定の場合と熱流束一定の場合の伝熱学的考察，円管内の乱流域における速度分布，摩擦抵抗係数，ヌッセルト数の定式化
垂直平板の自 然対流	1	ブジネスク近似による運動量方程式，速度境界層と温度境界層，グラスホフ数，局所および平均ヌッセルト数の誘導，乱流の効果

【教科書】八田夏夫：熱の流れ（森北出版）

【予備知識】微分積分学，流体力学及び演習

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

地質工学及び演習

31080

Engineering Geology and Exercises

【配当学年】3年前期

【担当者】青木・松岡（俊）・平野・水戸

【内 容】講義及び演習によって、岩盤構造物の建設及び防災分野における地質工学の役割、地質調査及び試験・計測の考え方、方法、評価法についての理解を図る。また、地質工学の新しい分野として、地下発電所、石油・エネルギー備蓄、放射性廃棄物処分などに関わる地下空洞建設技術への適用について概説する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	1	岩盤構造物の建設及び防災分野における地質工学の役割と適用について事例を交えて概説し、講義及び演習のねらいを明確にする。
地質調査計画及び地質概査	1	ダムなど大型構造物建設における基礎岩盤の地質調査を例にとり、調査段階区分やシステムティックな調査の方法と考え方、及び構造物の建設計画や設計・施工における地質調査結果の利用法について概説する。初期段階における地質概査の方法と考え方を文献調査、地形図・空中写真判読、リモートセンシング、地質踏査、物理探査などについて解説する。
地質精査	2	ボーリング調査、横坑調査、物理探査など中間段階における地質精査の方法について解説する。また、ボーリングコア鑑定技術について習得させる。さらに、調査結果の集約としての地質図の作成と読図法について解説し、地質図学及び地質図作成法について習得させる。
岩盤試験法	1	原位置岩盤試験のうち平板載荷試験・原位置せん断試験、及び岩盤透水試験について解説し、データ解析法について習得させる。
岩盤不連続面計測	1	岩盤の不連続面の調査・評価・モデル化・解析方法について解説し、計測及びモデル化の手法について習得させる。
岩盤評価法	1	地質調査、岩盤試験・計測結果の工学的評価法及び設計・施工への適用について解説する。
地下空洞建設における地質調査・計測	2	地下空洞建設における物理探査、孔内載荷試験、透水試験などの地質調査・試験法、及び岩盤の計測・管理技術について解説する。
地下空洞建設における岩盤評価及び設計・施工法	3	地下空洞建設における岩盤評価及び設計・施工に関わる地質工学の基礎技術について事例を交えて解説するとともに、ケース・スタディにより地下空洞の調査計画及び設計技術を習得させる。
自然斜面及び岩盤掘削斜面の調査と対策工	2	地すべり・斜面崩壊及び岩盤掘削斜面の調査・計測、安定性評価、対策工の設計について解説するとともに、極限平衡法による斜面安定解析法について習得させる。

【予備知識】基礎地質学を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

物理探査工学

31090

Geophysical Prospecting

【配当学年】3年前期

【担当者】芦田・松岡（俊）・菅野

【内 容】各種の物理探査技術のうち、よく用いられる電気探査、電磁探査、反射法地震探査法について、データ取得・処理技術について講述するとともに、土木分野への適用について述べる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
順問題と逆問題	1	
電気探査法	2	比抵抗法、IP 法
電磁探査法	2	データ取得、データ処理
弾性波の走時	1	屈折法・反射法の走時
反射法地震探査法	5	データ取得技術、データ処理技術
物理探査データ解釈技術	1	
土木分野への適用	2	トンネル切羽前方探査、SWD

水・土壌環境工学

30510

Water and Soil Pollution and Control

【配当学年】3年前期

【担当者】森澤・嘉門

【内 容】水・土壌環境の構成と機能，保全のための法体系，わが国における汚濁の現状と傾向、土壌・地下水系における汚染の発生と輸送，輸送と変化に係る物理・化学・生物学的諸機構，有害物質による汚染の影響評価および浄化手法，地下水の変動と保全，固体系廃棄物の適正処理と処分，廃棄物処分場の構造課題と跡地の有効利用等について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
水・土壌環境の汚染の現状とその特色、保全のための法体系	2	わが国における地下水・土壌汚染の現状と経年変化、その特色等を紹介すると共に、地下水環境基準や土壌環境基準設定の背景等について講述する。
地下水・土壌汚染の機構と評価モデル	2	地下水・土壌汚染の機構、汚染の拡大を評価・予測する数学モデルの導出、その基礎となる知見、関連パラメータの決定方法等について講述する。
地圏環境の監視とそのシステム	2	地圏環境の汚染を監視するための環境調査法について講述する。特に、地下水汚染の環境モニタリングシステムの設計法、土壌汚染モニタリングシステムの設計の技術的枠組みについて述べる。
地下水・土壌汚染の修復	2	地下水・土壌汚染の修復技術の概要を紹介すると共に、現在わが国で開発され、実際に適用されつつある原位置修復技術の現状と適用例を紹介する。
地下水の変動と保全	2	人為的要因による地下水位変動やその流動状況の変化のメカニズムを示し、それに付随して生起する地盤環境問題への対応方法等について講述する。
固体系廃棄物の適正処理と廃棄物処分場の構造課題ならびに跡地の有効利用	3	固体系廃棄物の適正な処理と、廃棄物処分場のあり方を講述し、関連する環境問題と廃棄物処分場が満たすべき構造上の課題、処分場跡地の合理的な利用法について述べる。

【教科書】環境地盤工学入門〔地盤工学会,1994〕

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

大気・騒音環境工学

31100

Air Pollution and Noise Engineering

【配当学年】3年前期

【担当者】笠原・松岡（譲）・松井（利）・西田

【内 容】都市・地球環境における大気環境の現状，気候変動問題，エネルギーと環境政策，汚染物質の発生源と抑制対策，大気汚染の法的規制，気象条件と汚染物質の拡散等，大気環境に関する基礎的知見ならびに，騒音の伝搬，回折，等騒音制御に関する基礎的知見について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
大気環境概論	1	大気の構造，大気汚染物質の発生など大気環境問題に係る基本的事項について述べる。
地域・地球環境問題	2	地域大気汚染問題および地球規模環境問題の現況と動向について述べる。
大気環境保全	1	大気環境保全・改善のための抑制対策・技術について述べる。
気候変動問題入門	1	気候変動問題の歴史、温室効果のメカニズム、地球温暖化の影響について概説する。
気候変動の緩和	1	地球温暖化の見通し、温室効果ガス排出の抑制を中心に、気候変動の緩和に関する諸手法について述べる。
エネルギーと環境の政策	1	地球温暖化問題、酸性雨問題、地域大気環境問題とエネルギーシステムの関わりについて、技術、社会・経済的側面から概説する。
下層大気の構造	1	大気拡散現象を理解するため、地表面付近の大気現象および煙の流れについて説明する。
大気拡散	2	拡散現象を表す基本式の誘導とその解法，さらにその応用について説明する。
法的規制	1	大気汚染を防止するための法的規制と，その基本となる排出基準と環境基準を解説する。
騒音	3	騒音の伝搬，回折，等騒音制御に関する基礎的知識を説明する。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

【配当学年】3年前期

【担当者】藤井（滋）・津野・山田（春）

【内 容】より快適な水環境を保全し、創造し、健全な社会生活を営む上で、利水の立場から水質をどのように把握し、どのように表示するか、また制御可能かどうかなどが問題となる。本講義では、水の物性並びに利水目標を勘案しつつ、活用されている水の質を示す指標群を列挙し、それぞれのもつ意義や意味を論じ、測定方法、指標としての限界や問題点を講述する。成績は、原則、期末試験の結果で評価する。

【授業計画】

項目	回数	内 容 説 明
水質と指標	1	局所水域あるいは地球規模の広域水域の汚濁問題など水環境における水の質の指標群を、水の物性、環境基準、各種利水目的の水質基準などから概観する。
物理指標群	2	主として物理的操作によって把握される指標群、例えば水温、濁度、密度、SS、VSS、吸光度、透明度などについて概説する。
化学指標群	4	化学的分析によって定量される指標群で、DO、BOD、COD、T-N、T-P、アルカリ度あるいは硬度、ミネラルなどを始め、陽イオン・陰イオンについて講述する。
生物指標群	4	人の健康に係わる水系伝染病関連指標や自然生態系での細菌、植物プラクトン、並びに動物プランクトンなどの働きを口述し、それぞれの指標と意味を論ずる。また湖沼・海域の富栄養化に係わる指標群について論述する。
有毒・有害物	2	急性毒性並びに慢性毒性を生じさせる物質群について、毒性自体の測定法並びに各物質の毒性特性を概説する。

【教科書】宗宮功・津野洋著「環境水質学」（コロナ社）

【予備知識】環境生物・化学（2年後期）を履修していることが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特にもうけない。環境質制御研究センター教員（藤井）については、講義時にコンタクト方法を教える。本部教員については各教員室（津野 230 号室、山田 232 号室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。

環境装置工学

30590

Environmental Plant Engineering

【配当学年】3年前期

【担当者】武田・高岡

【内 容】この講義では、環境保全に果たす環境装置の位置づけおよびこれに共通する工学的的手法について述べる。流体の輸送、伝熱などの移動現象の取扱から粒子状物質の沈降やろ過、脱水、汚泥、廃棄物の乾燥や燃焼、ガスの吸収、吸着などの単位操作の原理と応用について講述し、水、固体、ガスの各廃棄物処理装置の設計原理と設計法を説明する。成績評価は、期末試験、小試験、レポート等を総合的に勘案して行う。(期末試験 60 点、小試験+レポート等で 40 点、合計 100 点満点)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	1	環境施設に関連した過去の事故例をもとに、技術者倫理について解説する。次いでご超 楡澆鯨柔 垢訝確盟犧適肇轡好 膳爐粒詰廚鮫劫憂ぜ、い 単位系と環境衛生工学で用いる量の扱いについて講述する。
流体の輸送と流量の測定	2	環境装置で扱う流体輸送装置の原理と設計について述べ、管路流量の測定ならびにばいじん測定について述べる。
粒子状物質の扱い	2	ばいじん、汚泥などの粒子状物質の性質を明らかにし、濃縮、ろ過、脱水、ばいじん除去装置の原理と設計について述べる。
水分を含んだ空気の性質	2	湿り空気の諸性質について述べ湿度図表の使い方に習熟する。
熱の移動	2	伝熱の理論を説明し、環境装置における応用を述べる。
汚泥乾燥装置・焼却装置	2	汚泥乾燥装置・焼却装置の計画と設計について述べる。
排ガス処理装置	2	気液平衡・気固平衡理論を述べ、硫酸化物等の排ガス吸収・吸着装置の設計と実際について述べる。

【教科書】なし

【参考書】平岡正勝、田中幹也著：新版 移動現象論（朝倉書店）水科篤郎、桐栄良三編：化学工学概論（産業図書）

【予備知識】移動現象論、水理学及び演習を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。オフィスアワーは特に設けない。メールまたは電話で連絡の上、各教員室（武田 318 号室、高岡 322 号室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。

環境生物・化学実験

30610

Environmental Biology and Chemistry, Laboratory

【配当学年】3年前期

【担当者】津野・藤井（滋）・山田・日高・永禮

【内 容】生物学的及び化学的水質指標に関する基礎的水質試験を実施し、上下水道及び水質汚濁に係わる定量的な分析手法を体得させる。さらに、基礎的な微生物培養や水質調整操作についての実験及び実習を課する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
基礎説明	5	調査，単位，計量，データ処理の説明の後，pH 計，吸光度計，天秤の操作を習得し，実験のための試薬を分担作成し，さらに実験を通して生じた重金属含有廃液を処理する。
無機指標	4	水試料のアルカリ度，アンモニア性窒素，水試料および活性汚泥中のリン，水中の SS，蒸発残留物量の測定を習得する。
有機指標	2	生物化学的酸素要求量 (BOD)，化学的酸素要求量 (COD) の測定を通して水環境試料中の有機物濃度を把握する。
生物指標	2	湖沼に棲息する生物を顕微鏡によって観察し，湖沼の汚染度を検討するとともに，細菌汚染を知るための一般細菌および大腸菌群の試験方法を習得する。

【教科書】

【参考書】環境水質学（コロナ社）

環境物理計測実験

30620

Physical Measurement of Environment, Laboratory

【配当学年】3年前期

【担当者】森澤・松井（利）・米田・中山・西田・村山・山本

【内 容】騒音・振動、各種ガスの機器分析等の基本的手法を実習させる他、大気汚染のフィールド調査、放射線の測定方法及び放射線と物質との相互作用に関する基礎的実験等を課し、環境に関する諸因子を計測するための物理的手法を体得させる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
騒音・振動計測	3	騒音・振動計測の原理と計測技術に関連する基礎的事項について講述すると共に、騒音・振動計測データを統計的に処理し、種々の騒音指標値を決定する手法について講述する。実際に騒音計を用いて環境騒音を、振動計を用いて環境振動を、また照度計等により室内の温熱・照度環境を計測する。
大気環境計測	3	大気計測の原理と方法、その基礎的事項について講述する。空気中の粉塵の量、粉塵の粒度分布、窒素酸化物（NO _x ）濃度、炭化水素（HC）濃度、一酸化炭素（CO）濃度を計測する方法を修得すると共に、フィールドにおいて種々の大気汚染物質濃度の計測を試みる。大気計測の原理と方法
放射線計測の原理と基礎	4	放射線と物質との相互作用を応用して放射線を検出し計測するための基礎的原理について講述する。実験に用いる GM 計数管の計数特性を分析し、放射性崩壊の統計的特性を把握する。測定器の信頼性を検定し、Al 板吸収法により β 線の最大エネルギーを計測する。
環境放射能の計測	4	熱ルミネッセンス蛍光線量計を用いて居住空間の放射線量を計測し、大気中の自然放射性核種を濾紙上に捕集しその半減期を測定することにより核種を同定する。水中や土壌中に含まれる自然放射性核種を同定し、濃度を測定する。また、サーベイメータを用いて模擬汚染箇所を調査する方法を修得する。

【教科書】別途実験指導書を配布する。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

鉄道システム

30480

Railway System

【配当学年】3年後期

【担当者】清野・中川(大)

【内 容】鉄道に関する工学的な知識と方法論について解説するとともに、鉄道が果たしている社会的役割を踏まえながら、新しい鉄道システムの方向についても講述する。成績は、演習課題4回の結果で評価する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
鉄道総説	2	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい鉄道システム ・鉄道の定義・分類・歴史
鉄道の構成要素	4	<ul style="list-style-type: none"> ・路線施設・線路構造物（全般） ・路線施設・線路構造物（軌道）〔演〕 ・ターミナル ・車両、列車の運行と制御、信号・保安
鉄道システムの建設プロセス	3	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の計画 ・新鉄道システム建設の手順〔演〕 ・既存システムの改良
鉄道をとりまく話題	4	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道的高速化 ・鉄道システムの安全性〔演〕 ・都市と鉄道、国土と鉄道〔演〕 ・鉄道の社会的役割

【教科書】亀田弘行・柏谷増男・星野鐘雄・朴性辰編著：新鉄道システム工学(山海堂)

【参考書】天野光三・前田泰敬・三輪利英著：図説 鉄道工学(丸善)

天野光三・中川大編：都市の交通を考えるーより豊かなまちをめざして(技報堂出版)

【その他】〔演〕と記した週には、演習課題を出題する。

オフィスアワーは特に設けないが、講義時に教員へのコンタクト方法を伝える。

地球環境工学

30500

Global Environment Engineering

【配当学年】3年前期

【担当者】松井・松岡（譲）・森澤

【内 容】地球規模で環境を把握しその将来を予見する必要性、地球環境問題の経緯とその意味、現在及び近い将来に対策が必要とされる地球規模の環境問題、種々の分野で開始されつつある対策の現状等の概要について講述する。ついで、地球温暖化、酸性雨、地球規模での物質循環、環境リスクとその評価、砂漠化と森林破壊、環境技術の国際移転、人口・エネルギー問題、地球環境問題への取り組み等の事例から個別の事項をとり上げ、それらの問題点、位置づけ、評価法、対策法について工学的視点から論じる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地球環境問題とは	3	地球温暖化を中心とする各種地球問題の現状と構造およびその原因について知見を整理して講述する。地球環境問題が国際社会の重要課題になり、現在に至る歴史的を概観し、地球環境問題について論じる場合の視点、今後の展望について述べる。
地球環境保全と技術移転	2	日本が先進国として途上国の環境問題解決に取り組む立場、方法について議論を展開する。その場合、沙漠化と森林破壊、ダム・湖沼の環境保全、廃棄物と都市衛生などの問題点を述べ、環境破壊の原因と対策について検討する。また、途上国に移転する技術と移転に伴う問題を講述する。
環境リスクとその評価	3	環境リスクとは何か、環境リスク管理の枠組み等について概説した後、リスクの認知、リスク対応行動の様相等について講述する。環境中の微量物質、放射線による人体影響等を例にして、リスク評価の事例を紹介する。
エネルギーと環境問題	1	大気中の二酸化炭素濃度の増加との関連で、日本を含む先進国と発展途上国のエネルギー消費の形態、および供給構造とエネルギーの利用形式、ならびに、資源としてのエネルギーの保全について将来の見通し、問題点について講述する。
地球温暖化問題の系譜と気候変動のメカニズム	2	地球温暖化問題の系譜を紹介し、気候変動問題の自然科学的メカニズムを理解するにあたり重要となる中心的概念を紹介する。
地球環境問題と科学技術の関わり	2	これまでの地球規模問題と科学技術の関わりに関する諸説を紹介し、地球環境問題の解決手段として、今後10年間程度の中期、今後100年程度の長期にどのようなことがどの程度、技術進歩に期待されているかを講述する。

【参考書】松井三郎編著：今なぜ地球環境なのか，コロナ社

土木学会編：地球共生時代の土木，土木学会誌，第79巻5号（土木系図書室で閲覧可能）

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加，授業順序の変更がありうる。

土質力学 II 及び演習

31070

Soil Mechanics II and Exercises

【配当学年】3年後期

【担当者】井合・大津・嘉門・佐藤・関口・勝見・木村・西山

【内 容】構造物に作用する土圧、基礎と支持力、斜面安定、地盤改良、地盤の振動特性の各問題について地盤内で生じる現象を説明し、これらの問題に対する数理的な取り扱い方法について説明する。また、演習問題を用いて各種地盤構造物の基礎的な設計手法の理解をはかる。成績評価は、期末試験、中間試験、レポート等を総合的に勘案して行う。(期末試験 70 点、中間試験+レポート+小試験等で 30 点、合計 100 点満点)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地盤工学概説	2	地盤工学全般に関して、概説的な解説を行う。また、技術者倫理に関連する事例について解説する。(初回および最終回)
土圧	6	擁壁等の地盤構造物にかかる土圧の発生機構とそれを解析的に取り扱う手法について演習問題を用いて説明する。
基礎と支持力	5	構造物基礎の構造と分類、ならびに基礎を設計する際の基本的考え方を講述した後、フーチングに代表される浅い基礎と杭に代表される深い基礎それぞれの支持力の計算手法を説明する。さらに、基礎構造物により地盤内に生じる応力と変形、ならびにこれに起因する構造物基礎の沈下の問題を演習問題を用いて説明する。
中間試験	1	
斜面安定	5	斜面破壊の発生機構を解説するとともに、安定した斜面を設計するための解析手法について演習問題を用いて説明する。さらに実際の斜面を想定した設計演習を行い、斜面構造物の設計手法の理解をはかる。
地盤改良	3	軟弱地盤の改良に用いられる地盤改良の原理と分類、ならびに具体的な改良方法とその効果について適用事例を交えて解説する。
地盤の振動特性	4	地震時の地盤振動特性と地盤の液状化現象の発生機構について解説し、地震時の地盤構造物の被害について事例を用いて説明を行う。また、液状化現象を振動台を用いて再現し、液状化現象の発生機構の理解をはかる。さらに、地震時の地盤構造物の設計上の留意点についても講述する。

【教科書】岡二三生著：土質力学（朝倉書店）。演習問題集（土質力学 I 及び演習で配布したものと同一）。その他、必要に応じて印刷物を配布。

【参考書】柴田徹、関口秀雄共著：地盤の支持力（鹿島出版会）、岡二三生著：土質力学演習（森北出版）

【予備知識】土質力学 I 及び演習、土質実験（3 年前期）

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室（大津 D152 室、嘉門 D174 室、勝見 D173 室、木村 D154 室、西山 D354 室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。防災研究所教員（井合・佐藤・関口）については、講義時にコンタクト方法を伝える。

環境プロセス実験

30630

Environmental Process Engineering, Laboratory

【配当学年】3年後期

【担当者】松井・清水・高岡・松田・越川・内海・大下・西田・松本（忠）・水谷

【内容】衛生工学に関連の深い物理的、化学的及び生化学的な諸プロセスにかかる単位操作について基礎的プラント実験を課す。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
実験項目の基礎	3	本授業で行う17の実験項目について、内容と留意点を説明する。
気体の流れ	1	ダクト内の流動状態を理解するために気体の流速と流量の測定に関する実験を行う。
流れ系における混合特性	1	トレーサー応答法による流れ系の混合特性に関する実験を行う。
管内乱流の総括伝熱係数	1	温水と冷水の間の熱交換実験を行い、管内乱流の総括伝熱係数を求める。
総括酸素移動容量係数	1	散気方式による酸素供給能を、ガス流量との関連から実験的に検討する。
充填塔における物質移動容量係数	1	充填塔を用いてCO ₂ -水系の吸収実験を行い、容量係数を求める。
凝集・急速ろ過	各1	ジャーテストにより、凝集剤の最適注入率を決定する実験を行う。また、急速ろ過実験を行い、流出濁質濃度や損失水頭の経時変化を調べる過程の進行パターンを理解する。
沈殿池流動・沈降特性	各1	長方形横流式沈殿池における流動・混合特性を整流壁との関連のもとで観察する。また、水中の濁質の沈降現象及び、横流式沈殿池の設計についての考え方を理解する。
清浄ろ層の損失水頭	1	ろ速、ろ材の形状、ろ層空隙率、損失水頭との関係を把握する。
活性汚泥法による基質除去	1	連続式活性汚泥法による実験により、基質除去反応速度等の基質除去特性を把握する。
活性汚泥沈降性・嫌気性消化	各1	糸状性細菌長を計測して、汚泥バルキングとの関係を検討する。また、回分式中温消化実験を行い、メタノールの分解率やガス発生速度定数の求め方を検討する。
廃棄物の発熱量と元素分析	1	有機性固形物質の発熱量の測定方法を修得し、元素分析結果による計算値との関係を把握する。
固形廃棄物からの重金属の溶出	1	固形廃棄物からの重金属の溶出条件について定性的な考察を加え、原子吸光分析法を修得する。
微生物の形質転換・PCR法による遺伝子の増幅	各1	プラスミドDNAにより形質転換を行い、遺伝情報をもたらす形質への影響について考察する。また、PCR法によりDNA断片を増幅し電気泳動的に確認することにより、その原理について理解する。

【教科書】担当教官作成のテキストを配布する。

【その他】各実験項目ごとに実験方法、結果と解析を記したレポートを提出させる。配当された授業時間のうち、講義や実験にあてられる以外の時間は、データ整理やレポート作成のために利用される。授業最終日には実験期間に排出した廃水と廃棄物の処理を行う。

コンクリート工学

30250

Concrete Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】小野紘一・宮川豊章・服部篤史

【内 容】鉄筋コンクリートやプレストレストコンクリート構造の基礎理論およびはり・柱などの部材の設計方法について詳述するとともに、健全なコンクリート構造物を構築するために必要な施工やコンクリートの特性および構造物の延命化技術の基本的な概念について講述する。

成績評価は、数回の小テスト、期末試験等を総合的に勘案して行う(小テスト 20 点、期末試験 80 点、合計 100 点満点)。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
コンクリート 構造物	1	鉄筋コンクリートの発展の略史、コンクリート構造物の種類・ 特長など。
コンクリート の性質	2	コンクリートの配合、フレッシュ性状、硬化性状など。
コンクリート 構造物の課題 と対策	3	初期欠陥、劣化、損傷の各種変状と対策など。
設計の基本	1	各種設計法、安全率、性能など。
構造用材料	1	コンクリート、鉄筋、高分子材料など。
曲げ・軸力	2	曲げ・軸力について、一般的挙動、耐力、例題など。
せん断・ねじり	1	せん断・ねじりについて、一般的挙動、耐力、例題など。
付着・定着	1	付着・定着について、一般的挙動、耐力、例題など。
ひび割れ・たわ み	1	ひび割れ・たわみについて、一般的挙動、耐力、例題など。
期末試験	1	定期試験期間中に行う。

【教科書】小林和夫：コンクリート構造学(森北出版)

その他、資料を配布する。

【予備知識】第2学年において構造力学Ⅰ及び演習を、また第3学年前期において材料学を履修しておくことが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。随時、各教員室(小野 452-1 号室、宮川 410 号室、服部 412 号室、いずれも工学部 5 号館)を訪れること。

構造設計学

30280

Design Principle in Structural Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】家村・杉浦

【内 容】土木構造物の設計に関する基本的諸問題について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
土木設計学の概説	1	土木設計学の概要について説明する。設計の概念と意義、土木設計の対象、土木構造物の特徴と要求条件、設計の流れ、力学設計、多段階決定過程、設計システム、制御系等について解説する。
設計の表現	1	設計表現の意義と役割、設計の表現法などについて説明する。
荷重概説	1	土木構造物の設計に当たって考慮すべき荷重の種類、特徴、分類について述べる。
荷重各論	1	各々の荷重の特徴とそれらの定量的表現法について説明する。構造力学、土質力学、水理学の基礎知識が必要。
荷重の統計的性質	1	不規則性の高い荷重の統計的な性質とそれらの特性値について論述する。確率統計学の基礎知識が必要。
信頼性解析の基礎	1	荷重と構造物強度の両者のばらつきを考慮した安全性の評価手法について述べる。
構造物の各種限界状態	1	構造物の使用性限界、終局限界、疲労限界などの各種限界状態について述べる。構造力学の基礎知識が必要。
各種設計フォーマットの比較	1	許容応力度設計法や安全係数による設計法などにおける各種設計フォーマットの比較を行う。
極限解析	2	極限解析の上界、下界定理を説明し、梁およびラーメン構造の極限解析を行う。構造力学の基礎知識が必要。
最適設計	2	最適設計の意義と考え方について概説した後、数理計画法(線形計画法、非線形計画法、ペナルティ関数法)を説明し、それらの適応例を示す。なお、最適化手法の基礎知識が必要。
機能・景観設計	1	公共性の高い土木構造物に要求される機能性、美しさ、環境との調和などへのアプローチ手法について述べる。

【予備知識】確率・統計解析及び演習、構造力学 I 及び演習、構造力学 II 及び演習の知識を前提とする。

波動・振動学（土木工学コース）

31110

Dynamics of Soil and Structures

【配当学年】3年後期

【担当者】五十嵐・清野

【内 容】土木分野における振動の基礎理論と実際への適用について講述する。成績評価は、平常点と期末試験の点数を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
構造物の振動現象および運動方程式	1	土木構造物においてみられる振動現象とその工学的重要性について述べる。また、慣性力を考慮した力のつりあい式が運動方程式であることを示す。構造力学及び微分方程式の基礎知識が必要。
自由振動	1	1自由度系の固有振動数と減衰定数を定義し、自由振動波形を求める。
強制振動	1	調和波外力による共振曲線、位相曲線を求め、周波数応答特性を明らかにする。
振動計の原理	1	変位計、速度計、加速度計の原理について述べる。
不規則応答	2	不規則な地震外力に対する応答の評価法と応答スペクトルの概念について述べる。
非線形振動	1	弾塑性復元力特性を有する構造物の基本的動的応答特性について述べる。
2自由度系の振動	1	2自由度系の運動方程式から自由振動の解を導き、固有振動モードの概念を把握する。
固有振動数と固有モード	1	多自由度振動系の固有振動数、固有振動モードと固有値解析との関係について説明する。線形代数の基礎知識が必要。
多自由度系の減衰自由振動	1	減衰力が存在する場合の固有振動モードの適用について述べる。
多自由度系の強制・不規則振動	1	モード解析法によって、調和波外力や不規則外力に対する応答を評価する手法について述べる。
各種の制振機構	1	受動的、能動的ならびにハイブリッド型制振機構の原理について概説する。
連続体の振動	1	連続体におけるせん断振動、曲げ振動と次元波動の方程式と解法について述べる。

【予備知識】微分積分学、線形代数学、構造力学Ⅰ及び演習、構造力学Ⅱ及び演習

波動・振動学（資源工学コース）

31111

Dynamics of Soil and Structure

【配当学年】3年後期

【担当者】芦田・松岡（俊）

【内 容】波動・振動現象の基礎に関して講述する。特に地下を伝播する弾性波動・電磁波動の挙動、および観測された波動に対する解析技術について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
単振動・振動の重ね合わせ	1	振動現象とその工学的重要性について述べ、単振動及びその重ね合わせについて述べる。
減衰振動	1	1自由度系の減衰振動に関して、減衰定数を定義し、振動波形を求める。
強制振動	1	調和波外力に対する共振曲線、位相曲線を求め、周波数応答特性を明らかにする。
連成振動	1	2つ以上の振動系がお互いに力を及ぼしあっている振動に関して述べる。
弦を伝搬する横波	1	1次元の波に関して弦を伝播する横波を例に述べる。
波動方程式と差分解法	1	波動方程式を導出し、計算機を用いたその解法に関して述べる。
弾性波動	3	弾性体中を伝搬する波動に関して、波動方程式の導出を行い、反射・透過現象について述べる。
電磁波動	1	マックスウエルの方程式から電磁現象が従う波動法的式を導出し、その解法に関して述べる。
回折現象・キルヒフォフの積分定理	2	キルヒフォフの積分定理を用いて、波動の回折現象について述べる。
スペクトル解析	1	フーリエ変換、相関係数、コンボリューション等に関して述べる。

【予備知識】微分積分学、線形代数学、確率・統計学

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

水資源工学

30320

Water Resources Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】小尻・堀

【内容】水資源の価値および開発・配分計画、管理、保全に関する方法論について、工学的に講述する。原則として成績評価は期末試験で行い、100点満点中60点以上で合格とする。

【授業計画】

項目	回数	内容説明
概説	1	水資源工学の目的、対象と課題
日本・世界の水資源概要	1	地球上の水分分布と循環、日本および世界における水資源の時・空間分布、水資源賦存量等
水需要の把握と予測	1	日本および世界の水需要特性、水需要の調査法・予測法
水資源開発の手段とその特性	1	貯水池・堰、海水の淡水化、流況調整河川、蒸発抑制、廃水の利用など種々の水資源開発手段とその特性
水資源開発の効率と限界	1	河川表流水の開発に関する量的な効率、投資効率、開発量の限界
利水計画の策定	2	利水安全度、目的の競合、多目的計画法
流域シミュレーション	1	水循環モデル（水量・水質）、流域管理の概念とその目的
水資源システムの管理	2	計画と実管理、計画予知と管理予知、貯水池運用の最適化（洪水・渇水）
気候変動と地球温暖化	1	気候変動が水資源の存在に及ぼす影響とその予測
持続可能な水資源計画	1	持続可能な水資源の開発と管理、水資源システムの持続可能性の評価指標
21世紀の水資源	1	最近の研究動向の紹介

【教科書】特に指定しない。

【参考書】池淵周一：水資源工学、森北出版、中澤式仁：水資源の科学、朝倉書店

【予備知識】水文学基礎、計画システム分析Ⅰ及び演習を習得していることが望ましい。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて、一部省略・追加もしくは項目の順序の変更がありうる。なお、オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業時または教官室で受け付ける（事前にアポイントメントを取ること、コンタクト方法は初回講義時に伝える）。

流れ学

31210

Hydrodynamics

【配当学年】3年後期

【担当者】瀬津・中北

【内 容】 この講義では、水工学における流体力学的側面のうち、流れの基礎方程式、境界層理論および乱流理論の初歩をわかりやすく講述する。また、大気中の水の流れを理解するための基礎を様々な観点から講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説	1	水理学・流体力学の発展史を概説する。
境界層理論の基礎	2	ポテンシャル流理論の破綻から境界層理論の出現と確立、境界層近似等を講述する。
境界層理論の応用	2	境界層理論の水工学への応用を講述する。
流体力	1	物体に働く流体力、せん断応力を講述する。
乱流理論の入門	1	乱流理論の初歩を平易に講述し、非線形力学のおもしろさを考える。
水文気象学基礎	3	鉛直方向の大気安定・不安定から降雨生成の基礎に至る、水蒸気を含む大気基礎を講述する。
大気境界層入門	2	地球温暖化と関連して重要な大気境界層の基礎、特に水面や陸面と大気との間の運動量、熱、水蒸気の交換について観測例を交えて講述する。
回転流体力学入門	2	低気圧発生理論の基礎等、回転する地球をめぐる大気の力学（気象力学）の基礎を講述する。

【教科書】瀬津家久・富永晃宏「水理学」、朝倉書店、2000。

【参考書】1. 参考書：瀬津家久「水理学・流体力学」、朝倉書店、1995、
2. 小倉義光「一般気象学」（東京大学出版会）

【予備知識】水理学Iの履習を前提とする。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

地球工学科

水理実験

30870

Hydraulics, Laboratory

【配当学年】3 年後期

【担当者】禰津・細田・石垣 (防)・後藤・牛島・岸田・角・堀・市川・沖・原田・山上・武藤 (防)・馬場 (防)・浜口 (防)・堤 (防)

【内容】水理実験および水理計測方法について概説し、水工学上の基礎的現象である管路・開水路流れ、波動、浸透流、密度流、流体力、土砂流送の水理現象に関する実験を行う。これらの実験で見られる流れとその作用の面白さを通して、水理現象を理解させる。成績評価は、実験への参加態度および実験レポート等を総合的に勘案して行う（実験への参加態度等の日常学習の評価 40 点、実験レポートの評価 60 点、合計 100 点満点）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
水理実験の概説	1	水理実験の目的、内容などについて概説し、技術者倫理に関連する事例について解説する。
水理計測器の概説	1	水理実験で用いられる計測器について、測定の方法、機器とその原理等について説明する。
実験項目 1-4	4	下記の A から H の 8 項目のローテーション制
レポート指導	1	第 3～6 回の実験に対してレポート作成の指導を行う。
実務上の諸問題解説	1	水理現象に関連する実務上の問題を解説し、必要に応じて見学会等の機会を提供する。
実験項目 5-8	4	下記の A から H の 8 項目のローテーション制
レポート指導	1	第 9～12 回の実験に対してレポート作成の指導を行う。
A) 層流・乱流の遷移と管路抵抗則	(1)	管路における層流と乱流のパターンを染料注入法で確認する。また、層流では Hagen-Poiseuille 流れ、乱流では Prandtl-Karman 流れとなることを抵抗則の面から検討する。
B) 開水路流れの流速分布と水面形	(1)	開水路流れにおける水面形および流速分布等を計測し、等流の抵抗則、流速分布に関する理論と比較する。また、水路勾配が変化する水路での水面形を測定し、一次元解析法による理論の検証を行う。
C) 水平路床上の跳水現象	(1)	最も基本的な水平路床上の跳水現象を取り上げ、現象自体の把握とその一次元解析による理論値と実験値との比較検討を行う。
D) 波の伝播と浅水変形	(1)	一様水深部を伝播する波の波形、波速および水粒子の軌道、振幅を測定する。ついで、これらの諸量と微小振幅波理論による計算値とを比較する。さらに、斜面上での碎波高と碎波水深を測定し、従来の碎波に関する実験式と比較検討する。
E) 浸透流・地下水	(1)	細管網モデル及び Hele-Shaw モデルを用いた実験により、定常浸透流の把握を行う。あわせて、細管網モデルを用いた実験により、河川への基底流出（非定常浸透流）現象の実験的把握を行う。
F) 密度流	(1)	密度流による輸送現象を理解するため、密度流フロントの流下速度やフロント後方における等流部の流れに関する抵抗則について検討する。
G) 円柱に作用する流体力	(1)	開水路流れの中に置かれた円柱の表面に作用する圧力分布を計測し、非回転流理論との比較を行う。また流れの可視化を行い、カルマン渦の周期特性等を計測する。
H) 流砂現象	(1)	掃流砂を対象に、砂粒子の移動限界、流砂量および動的・静的平衡勾配に関する計測・観測を行い、従来の理論式や経験式との比較検討を行う。

【教科書】水理実験指導書：京都大学工学部地球工学科 水理実験担当グループ（無料配布）

【参考書】禰津家久：水理学・流体力学，朝倉書店（1995 年）

【予備知識】水理学 I 及び演習

【その他】一部の実験項目については、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー（京都市伏見区）で行う。オフィスアワーは特に設けないが、実験実施時に各教官へのコンタクトの方法を伝える。宇治川水理実験所（京都市伏見区）で行う。

岩盤工学（土木工学コース）

31120

Rock Engineering

【配当学年】3年後期（土木コース）

【担当者】大西

【内 容】地下空間の利用やエネルギー開発・交通網の整備を目的としたトンネル、ダム、斜面などの岩盤構造物の設計方法や建設方法を述べる。地質構造とその分類、岩盤や岩石の力学特性に関する基本的事項、調査法、試験法、岩盤内地下水の挙動についてビジュアル教材も用いて解説する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
岩盤工学概観	1	地盤工学という体系の中で地質との関わりが深い岩盤工学の位置づけ、内容、適用範囲、具体的なダム・トンネル・地下構造物などの岩盤構造物について解説する。
岩盤工学の応用 地下空間の利用	2	岩盤工学の適用分野で最も今日性の高いものに地下空間の利用がある。都市域および山間部での地下空間の開発計画、地下の環境、デザイン、空間開発の技術について実例を示して解説する。
地質学と岩盤工学	1	岩盤工学を学ぶ上で知っておくべき地質学の基礎を説明する。鉱物や岩石の名前、組成、地質構造、地形などについての理解を深めさせる。
岩石及び岩盤の力学特性	2	岩石の強度・変形特性とそれらを求めるための実験方法と結果の解釈の方法を理解させる。次に、岩盤と岩石の違い、不均質性・異方性、寸法効果について説明する。
不連続面の性質と表記法	2	断層・節理など不連続面の力学的、水理学的特性を説明し割れ目ネットワークのモデル化について理解させる。3次元的に分布している不連続面の表記法としてのステレオ投影法を演習で理解させる。
岩盤の調査法と試験法	3	地質調査から始めて、岩盤の載荷試験や孔内試験、多くの物理探査の方法を説明すると共にデータの解釈の方法とその結果をいかに利用するかについて解説する。さらに、初期応力の測定方法とその利用の方法について述べる。
岩盤水理	1	岩盤内を流れる地下水の挙動を把握する方法、解析の方法、環境問題との関連について説明を行う。
岩盤構造物	1～2	岩盤にはトンネル・地下空洞、ダムや橋梁の基礎、斜面が構築されるが、これら構造物を構築するための方法論、問題点について説明する。

【教科書】大西・谷本：わかりやすい岩盤力学（鹿島出版会）

岩盤工学（資源工学コース）

31121

Rock Engineering

【配当学年】3年後期（資源工学コース） 【担当者】斎藤・朝倉

【内 容】地下空間の利用や資源開発を目的とした地下空洞、ダム基礎、斜面などの岩盤構造物を設計する際の基礎となる、岩石や岩盤の力学特性およびその試験法、地下水の挙動などについて解説し、岩盤構造物設計へのこれらの適用について述べる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
岩盤工学について	1	岩盤構造物の力学的設計の全体的な流れとその問題点を整理し、岩盤工学が目的とするもの及び本講義で取り扱う範囲について述べる。
岩盤の物理的性質	2	鉱物・岩石・岩盤の材料としての力学モデルの基本的な相違、各種の物理的特性の定量化、岩盤不連続面の定量化、岩盤の工学的分類などについて述べる。
岩盤の破壊理論	4	内部摩擦角説、最大せん断応力説、応力円包絡線説、せん断ひずみエネルギー説、Griffith 理論などの破壊理論とそれに基づく破壊条件、一般的な破壊条件とその表現、強度と破壊の確率論的取り扱いなどについて述べる。
強度と試験法	3	圧縮強度、引張強度、せん断強度とその試験法、三軸圧縮試験とせん断試験、剛性圧縮試験と破壊過程、原位置における岩盤試験法などについて述べる。
岩盤の変形	2	破壊後を含む応力-ひずみ関係、体積ひずみとダイラタンシー、水や温度の変形特性への影響、クリープや応力緩和現象など時間依存特性と力学モデルを用いた表現などについて述べる。
岩盤中の浸透流	2	ダルシーの法則、透水試験、浸透流解析などについて述べる。

【教科書】日本材料学会編：ロックメカニクス（技報堂）

【予備知識】弾性学を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

土木施工学

30390

Construction Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】木村・岸田

【内 容】一般土工，ダム，都市トンネル，山岳トンネル，構造物基礎，大規模地下空洞その他の地盤構造物の施工法について解説する。さらに，国内外の地盤関連プロジェクトの紹介を行い，プロジェクトのマネジメント手法および利用される最新技術について解説を行う。成績評価は，期末試験，レポート，小試験等の日常学習評価を総合的に勘案して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地盤調査の概要	1	地盤構造物を設計・施工する上で用いられる地盤調査法を紹介し，その原理について理解をはかる。
一般土工・カルバート施工	2	道路，宅地，空港等の造成に代表される一般土工について講述する。さらに，カルバートの施工法の紹介，メカニズムの解説を行うとともに，カルバート施工の問題点を紹介した後，その対策手法に関する検討例，実事例の紹介を行う。
ダムの施工	3	ダム構造解析に関する解説を行う。ダムの施工に関し，ダムの建設目的と用途，ダムの構造と種類を開設した後，施工法に関する説明を行う。
山岳トンネルの施工	1	トンネル掘削に伴う地山の安定問題を解説した後，山岳地域におけるトンネルの施工法に関し，各種の施工法を紹介する。特に代表的な施工法である NATM について，その原理と施工法について解説する。
都市トンネルの施工	2	地下鉄，上下水道，地下道路等に代表される都市トンネルに関し，各種の施工法を紹介した後，代表的な施工であるシールド工法について説明する。シールド工法に関しては，種類と用途，一般的な施工法について概説する。
構造物基礎の施工	2	建築や橋梁等の基礎工法について，その分類と用途について紹介した後，特に杭基礎の施工法と施工管理について実際の工事を例に解説する。
大規模地下空洞の利用例	1	大規模地下空洞の設計・施工法の解説を行う。さらに，地下石油備蓄や放射性廃棄物の空洞処分など利用用途に伴う問題点や対策法について実事例を紹介しながら解説を行う。
プロジェクト事例の紹介	2～3	国内外における地盤構造物に関連するプロジェクトを紹介し，そのマネジメント手法および利用される最新技術について解説する。

【教科書】必要に応じて適宜資料を配布する。

【参考書】指定しない。

【予備知識】土質力学 I 及び演習，土質力学 II 及び演習を前提としている。

【その他】講義では，実際の施工に対するイメージをつかめるよう，実際の工事における記録ビデオ等を使用する。オフィスアワーは特に設けませんが，必要に応じて各教官室（木村 154 号室，岸田 218 号室）で対応する。

応用測量学

30410

Applied Surveying

【配当学年】3年後期

【担当者】立川・中北

【内 容】地球上の空間情報を収集・管理・分析するための手法を解説し、地球環境を総合的に理解して問題解決に当たるための基本的な情報分析手法を示す。特に、地理情報システム・リモートセンシング・写真測量・GPS 測量に焦点を当て、ローカルな詳細情報・グローバルな全球情報の数理的な取り扱いとその地球工学における応用手法を、最新のデータ・観測技術を含めて解説する。成績は、期末試験、レポート等を総合的に勘案して評価する。期末試験 70 点、レポートおよび小試験などで 30 点、合計 100 点満点とする。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
空間情報学概説	1	空間情報学の必要性と役割、その地球工学との関わり、空間情報学を支える最新技術について解説し、空間情報学全般に関して概説する。
数値地理情報と地理情報システム	3	地理情報の数値表現手法と地理情報システムについて解説する。1 回目は、地図投影法と座標系、メッシュコードについて解説する。2 回目は、数値地理情報の数理的な記述法について解説し、様々な地理情報システムの応用例を示す。3 回目は、数値地形モデルに着目し、地形の 3 次元の数値表現手法とその地球工学における利用方法について解説する。
リモートセンシングの基礎	5	リモートセンシングによって地表面の情報を取得する方法を解説する。1 回目は電磁波および放射の基礎を説明し、リモートセンシングによる観測原理を解説する。2、3 回目はリモートセンシングデータのデータ処理方法を説明し、観測データから有用な地球表面情報を抽出するための基本的な手法について解説する。4、5 回目はリモートセンシングによって得られるローカルな詳細情報・グローバルは全球情報を、最新のデータ・観測技術を含めて解説する。
写真測量	2	写真測量の基礎理論について解説する。講義内容は、ステレオ写真(画像)の幾何学的特性と三次元計測、多重撮影写真の標定要素の同時決定と空中三角測量、DEM とオルソフォト画像作成手法である。
GPS 測量	2	GPS 測量について解説する。講義内容は単独測位・干渉測位の原理、電子基準点、GPS 気象学である。

【教科書】教科書は使用しないが、資料を配布し、それに基づいて講義を行う。

【参考書】村井俊治：空間情報工学，(社)日本測量協会，1999。

【予備知識】情報処理及び演習（1 年後期）、確率統計解析及び演習（2 年前期）、測量学及び実習（3 回生前期）を履修していることが望ましい。

【その他】オフィスアワーは設けない。質問等がある場合、本部教員（中北）については工学部 5 号館 106 室を訪れること。防災研究所教員（立川）については、講義時にコンタクト方法を伝える。

社会システム計画論

30440

Planning and Management of Social Systems

【配当学年】3年後期

【担当者】岡田・萩原

【内 容】地球工学が対象とする社会基盤整備計画・マネジメントの役割とこれをシステムズアプローチにより科学的に支援する方法について講述する。また実例に即してグループ学習やフィールドワークも交えて、受講者の理解を深める。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概 論	1	計画の対象としての社会システム, 社会基盤整備の目的, プランナーの役割・使命と計画者の技術者倫理
社会基盤整備計画	1	インフラストラクチャ・社会資本・社会基盤・公共財の特徴と役割, 社会システムの整備状況
計画プロセスとシステム分析	2	計画プロセス, システム分析の循環過程, 計画数理とシステム分析技法, 経済学モデル, 社会学的アプローチ
問題の明確化	4	問題の明確化の目的, K J 法, I S M 法, グループ学習
調 査 法	2	調査の目的, 社会調査法, 多変量解析技法, フィールドワーク
予 測 法	1	予測の目的, 予測技法
設 計 法	1	設計の目的, 代替案の設計, 数理分析的アプローチ
ま と め	1	評価の目的, 評価技法の概要, 社会システム計画の今後の課題

【教科書】土木計画システム分析 -現象分析編- (森北出版)

【参考書】都市環境と水辺計画 (勁草書房)

【予備知識】確率統計学の基礎, 数理分析の基礎

【その他】成績評価は出席を前提に, レポート (40%) と定期試験 (60%) の割合で行う。オフィスアワーは特に設けないが、講義時に教員へのコンタクト方法を伝える。

都市・地域計画

30450

Urban and Regional Planning

【配当学年】3年後期

【担当者】青山・川崎

【内 容】都市計画のプロセスを述べ、都市施設計画と土地利用政策、交通政策について論じ、さらに、土地利用・交通・環境保全・都市経済などの基礎理論とモデルを講述する。成績評価は、期末試験を勘案して行う（青山担当 70 点+川崎担当 30 点、合計 100 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
都市地域計画序論	1	都市・地域の理念と諸問題を示し、計画の社会的背景と必要性を認識させる。講義で対象とする都市・地域の定義、立地、分類についての基礎的な事項と計画の目的、歴史と思想について述べる。さらに、計画者が備えるべき技術者倫理について解説する。
(1) 都市計画の立案と実施-調整とプロセス-(2) 土地利用計画 (3) 市街地開発整備計画と都市再開発	2	計画の初期段階で行う調査の目的と内容、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域の考え方と事例、都市計画の決定と実施のプロセスについて述べる。土地利用計画の意義と内容、計画制限とその変遷について概説する。さらに、地域制に関する説明を行う。市街地開発整備計画の基本になる新市街地の開発計画、土地区画整理、促進区域・市街地開発事業予定区域、住区計画を説明し、都市再開発、地区再開発、住宅再開発についての事業手法を説明する。
交通計画	1	交通施設計画策定の手順とその内容について解説する。基礎になる交通需要予測モデルと交通経済学の概説、対象施設になる都市道路、公共交通、鉄道、ターミナル施設の説明を行う。
都市モデルと理論	2	人口予測・移動モデル、経済循環・基盤モデル、産業連関分析、土地利用モデル、都市経済学などについて述べる。
計画評価理論とモデル	2	政策評価・事業評価、費用便益分析、財務分析などについて述べると共に、消費者余剰、CVM、トラベルコスト法、ヘドニックアプローチの理論を概説する
環境問題と都市システム	1	環境問題、地球環境、都市環境の今日的な課題と環境経済学的視点からの計画策定のための要件について述べる。
都市の景観	2	地域風土と都市景観、緑地・公園、景観の評価分析、都市施設の景観設計について述べる。
法制・制度・財政 財源・費用分担 と便益	2	建築基準法、土地区画整理法など都市地域計画を支える法律制度と、税金や基金の制度を解説する。さらに、都市計画事業の財源、受益と費用分担、社会的便益と便益計測モデルについて解説する。

【教科書】青山吉隆編：図説 都市地域計画（丸善）

【参考書】加藤晃、河上省吾著：都市計画概論（共立出版）

【予備知識】特になし

【その他】オフィスアワーは特に設けない。質疑は各教員室（青山 D414 室、川崎 D406 室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。

河川工学

30460

River Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】細田・竹門（防）

【内 容】河川の治水、利水および自然環境機能とそれらを有効に発揮させるための科学・技術を主題とし、川を見る視点、生態系も考慮した近年の河相変化とその要因分析、様々な河川流と河床・河道変動予測法、河川・湖沼生態系、近年の水害の特徴、流域計画（治水・河道・環境計画、貯水池計画、総合土砂管理）、河川構造物などを内容とする。成績評価は、期末試験、講義中の小テスト、レポートを総合的に勘案して行う。（おおよそ期末試験 60 点、小テスト 20 点、レポート試験 20 点で合計 100 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説、川と流域をみる	1	川を見る視点、世界の川と日本の川
川と流域の形成過程及び近年の河相変化	1	日本列島の誕生と流域の形成過程に関する基本的事項、近年の河相変化とその要因分析
降水、水循環と流出現象（1）	1	気象に関する基本的事項、降水の観測と解析、水文統計、洪水の流出過程と流出解析
降水、水循環と流出現象（2）	1	気象に関する基本的事項、降水の観測と解析、水文統計、洪水の流出過程と流出解析
河川流と河床・河道変動（1）	1	様々な川の流れ、河川流の観測と解析法、川の中の砂の波、
河川流と河床・河道変動（2）	1	河川地形の分類、河床・河道変動解析と河道計画
水域生態系の構造と機能（1）	1	生物群集の分布現象
水域生態系の構造と機能（2）	1	生態系における生物間相互作用
水域生態系の構造と機能（3）	1	河川・湖沼生態系の物質循環
近年の水災害と治水計画	2	近年の水災害の事例、水量の確率評価、治水計画のプロセス、氾濫解析とハザードマップ、総合治水、超過洪水対策
河道計画及び利水・水環境計画	2	中小河川の諸問題と河道計画、河川環境計画、維持流量・正常流量、貯水池・湖沼の水環境
総合土砂管理・河川構造物	1	土砂の生産・貯留・流出、総合土砂管理、土砂災害対策、堤防、護岸・水制、床止め、地下河川等の機能
おわりに、本の中の川	1	講義内容のまとめ

【教科書】教材はプリント配布。

【参考書】<http://river4.kuciv.kyoto-u.ac.jp/lab/riv-elearn.html> に関連資料が置いてある。

【予備知識】予備知識として水理学、水文学の基礎知識を必要とする。

【その他】オフィスアワーは特に設けないが、必要に応じて各教室で対応する。（細田 216 号室、防災研究所の竹門も同 216 号室で対処する。）

【配当学年】3年後期

【担当者】嘉門

【内 容】道路の建設に当たって全体システムに対する理解が重要であることをまず初めに明らかにし、道路の構造システムの成り立ちと道路建設のための計画・調査・設計・施工・管理の個々のサブシステムの関連を説明する。また、道路工学において特徴的な舗装システムに関して構造・設計・材料のあり方を中心に解説する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
道路の全体システム	2	道路ネットワークの現状を示し、課題の抽出を行う。さらに、紀元前からの世界の道路ネットワークの歴史の変遷をたどる。
道路の構造システム	2	我が国の道路構造基準体系を示し、その背景を考察して、道路の構成基礎パラメーターを解説する。
計画・調査サブシステム	1	道路建設に当たり必要な計画と調査について、特に環境影響評価と地盤調査を中心に解説する。
設計・施工サブシステム	3	道路路体構造のあらましを述べ、土工を中心に盛土・切土・土量配分を解説する。さらに、道路橋と道路トンネルの設計を自動車交通のための観点から説明する。
舗装システム	3	舗装の構造・設計・材料の特性をアスファルト舗装とセメント舗装の両者の相違を中心に述べ、新材料や新工法の開発状況についても解説する。
管理・環境保全システム	2	道路の維持・管理システムや交通管理システム、ならびに環境保全システムの現状と将来について説明する。

【教科書】なし

【参考書】土木学会：舗装工学（丸善）

【予備知識】土質力学を前提としている。

【その他】必要に応じて印刷物を配布する。各項目ごとに適当なテーマを選んで宿題を課し、翌週に提出させる。

公共経済学

30850

Public Economics

【配当学年】3年後期

【担当者】小林(潔)、多々納

【内 容】ミクロ経済学の基礎概念を習得し、社会基盤プロジェクトの事業評価の理論に関する概念を理解させることを目的とする。このために、ミクロ経済学の基礎概念に関して比較的詳細な講義を行うと共に、市場の機能や経済主体の行動、社会厚生の評価に関する概念を後述する。次いで、市場の失敗について言及し、その対処法に関して説明する。その際、社会基盤の経済学的な特徴に関して解説し、その評価の方法として一般的な費用便益分析に関して説明する。成績評価は、定期試験、レポート、出席を総合的に勘案して行う。(定期試験：7-8割、レポート及び出席：2-3割)

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説及び消費者行動モデル	3	本講義の概説を行うと共に、消費者行動モデルについて詳述する。具体的には、家計の選好、効用、効用最大化行動について説明したあと、需要関数の性質、補償関数、スルツキー方程式、集計需要関数について述べる。さらに家計の厚生測度の種類とその性質について説明する。
消費者行動の演習	1	上記3回の講義の演習を行う。
企業行動モデル	2	企業の行動モデルの説明を行う。まず基本的な知識として、技術、生産関数、利潤最大化行動、費用最小化行動について説明する。続いて費用関数と供給関数についてその性質やポイントを詳述すると共に、市場構造と企業の行動について説明する。
企業行動の演習	1	上記3回の講義の演習を行う。
完全競争市場	1	完全競争市場について説明を行うと共に、一般均衡分析と部分均衡分析との違い、パレート効率性の考え方について詳述する。
外部性	1	外部性の発生メカニズムやその種類、外部性の内部化方策について説明する。
公共財	1	公共財の持つ性質やサミュエルソン条件について説明する。
市場・外部性の演習	1	上記3回の講義の演習を行う。
費用便益分析	2	費用便益分析の考え方について費用や便益の考え方、社会的割引率や評価指標に関して説明し、財務分析との違い、便益の計量化手法に関して詳述する。また技術者倫理の観点からみた、事業評価のあり方について論述する。

【教科書】ハル・R・ヴァリアン：入門ミクロ経済学，勁草書房

【参考書】小林編：知識社会と都市の発展，森北出版

【予備知識】計画システム分析及び演習(旧カリキュラムの計画システム分析I及び演習)を履修していることが望ましい。

【その他】質問等は毎週火曜日4限目の講義時間終了後(16:15-17:00)，5号館Rm.420の松島助手室で受け付ける。

都市景観デザイン

31630

Urban and Landscape Design

【配当学年】3回生 後期

【担当者】樋口忠彦・川崎雅史

【内 容】都市施設やオープンスペース、街路や地区の景観をデザインすることは、広域な都市、地域、自然との密接な空間のつながりを考慮し、環境との調和ある人間活動の場所を創出することである。このような都市景観の目標像を特定し、実体的なデザイン表現を行うための方法論を習得する。成績評価は演習課題のレポートを総合して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
都市景観デザインの概念	4	・景観デザインの目的・意義と役割・景観デザインの対象と考え方・景観デザインの系譜（歴史の変遷、都市史）
都市景観デザインの技法とプロセス	4	・形とスケール、図面の理解・技法とプロセス・デザインの評価（事例）
都市景観デザインの表現	5	・景観調査の方法・コンセプト、デザインイメージの立案・デザイン表現

【参 考 書】都市のデザイン（学芸出版）、街路の景観設計（技報堂出版）、建築設計資料17 歩行者空間（建築設計資料研究社）、シビックデザイン（大成出版社）

【そ の 他】オフィスアワーは特に設けない。質疑は各教員室（樋口 D404 室、川崎 D406 室 いずれも 5 号館）を訪れること。

資源地質学

30710

Resource Geology

【配当学年】3年後期

【担当者】福中・楠田

【内 容】エネルギー資源、金属資源、非金属資源について、資源の分類、鉱床の成因及び組成、形態、構造、分布などについて講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
化石エネルギー資源	3~4	エネルギー資源の供給に関する基本的事項について概述した後に、石油・天然ガス鉱床ならびに石炭鉱床の根源物質、形成過程、埋蔵量などについて述べる。
ウラン資源	1	ウラン鉱床の成因、ウラン鉱物、ウラン資源の評価などについて説明する。
地熱資源	1	地殻における地熱資源の分布、熱水型の分類、地熱資源の評価について講述する。
金属資源	2~3	プレートテクトニクスと鉱床、鉱床の分類、形態と構造、鉱液の性質、生成温度などについて概述する。
正マグマ鉱床	1	マフィックな火成岩、フェルシックな火成岩の冷却過程に形成される鉱床について説明する。
熱水鉱床	2	海底の熱水鉱床、斑岩銅鉱床、スカルン鉱床、鉱脈鉱床、塊状鉱床について、火成活動、鉱床形成過程、鉱石鉱物、探鉱法などを講述する。
堆積鉱床	2	岩石の風化機構を説明し、風化残留鉱床、砂鉱床、堆積性鉄鉱床、堆積性マンガン鉱床について、形成機構、鉱石鉱物、規模などを説明する。
非金属資源	1~2	非金属資源の分類、鉱床の成因、資源の評価などについて述べる。

【参考書】西山：鉱物資源の現状（アルム出版社）；西山：資源経済学のすすめ（中公新書 1154）；飯山：鉱床学概論（東大出版会）

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

【配当学年】3年後期

【担当者】斎藤・朝倉

【内 容】各種の素材資源や石油などのエネルギー資源の開発および地下空間利用を目的とした地殻開発を対象として、特に岩盤掘削技術、削井技術、地下空間の設計および資源の採鉱技術などについてその基礎的理論と技術の現状について述べる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
資源開発のための地下空間	2	資源開発で用いられている地下空間設計や採鉱システムについて、岩盤強度や鉱床形態などの関連、経済性や環境への影響などについて概説する。
地下空間の利用	2	地下利用を目的とした地下空間開発の現状や計画について、その利用目的と空間設計、地下利用の利点と問題点などについて概説する。
岩盤の掘削	3	地下空間を創出する基本となる岩盤掘削について、岩石破碎に用いられている基本的な機構やエネルギーについて概観し、特に最も一般的な爆薬による岩盤掘削の工学的な考え方、発破工法によるトンネル等の掘削技術、制御爆破法等について述べる。
地下空間の力学的設計	3	まず、地下岩盤内の初期地圧状態について一般的傾向を述べ、弾性岩盤中の各種の形状をした地下空間周辺の応力状態、空間周辺に破壊が発生した場合の応力状態、地下空間の力学的安定性の評価と支保の作用など、地下空間の力学的設計の基礎的事項について述べる。
石油開発	3	石油開発や地熱開発等で用いられる深い井戸を掘削する削井技術を中心に、石油開発技術について概説する。
地下空間の環境	1	地下空間における通気、温度など環境問題について概説する。

【予備知識】弾性学、岩盤工学を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

工業計測

30760

Measurements in Industry

【配当学年】3年後期

【担当者】塚田

【内 容】土木建設機械や設備機器に関わる力学系の諸工業量を対象として、その検出法、変換法、および記録法などの原理と、それを実現するためのセンサーと電子回路および一般的な装置を概説する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
計測の基本概念	2	計測方式の分類、測定誤差となる因子について述べる。測定器の貪欲さと被測定物の剛性との関係、測定器の周波数特性の動的現象測定に与える影響など、計測に関する一般的な注意点を概説する。
ひずみ計測	2~3	構造物に生じている応力を測定する場合、ひずみを計測することによってその値を求める事が多い。ひずみの計測に用いられる電気抵抗線ひずみゲージの原理と使用方法について概説する。
温度計測	2~3	熱電対、半導体ダイオード、サーミスタなどによる温度の電気計測について概説する。特にサーミスタについては、その特性と使用方法を詳しく述べ、これを用いた計量以外に使用される各種電気回路についても概説する。
磁気計測	2	磁気計測の目的と原理を述べ、磁気抵抗素子、ホール素子などの各種磁気センサーの特質を概説する。
光計測	2	フォトセルやフォトダイオードなどの光センサーを用いる計測技術の原理と装置について概説する。
信号処理	3	アナログ信号の各種処理回路に使われるオペアンプの性質と使用方法を講述する。さらに、信号のデジタル化の方法とその表現法にも言及する。

【教科書】必要に応じてプリントを配布する。

【予備知識】電気磁気学、弾性学。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

【配当学年】3年後期

【担当者】石井, 新苗, 福中

【内 容】固-固分離, 固-液分離など固体微粒子相を中心とした分離法の基本的概念を説明する。すなわち, 資源の有効回収に重要な浮遊選鉱法, 溶媒抽出法, 比重選別法, 重液分離法, 薄流選別法, 磁気及び静電分離法などの基礎理論について述べるとともに, 個々の資源および素材を対象にした高度分離法について講述する。また, これらの技術および現象の理解に必要なコロイド化学および界面化学の基礎についても講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
分離工学序論	1	工業用原料鉱物中の有価成分の分離精製法の歴史的推移を概説する。
浮遊選鉱法およびコロイド化学	4	地球環境問題やリサイクル技術の解決に不可欠な固-固分離操作としての浮遊選鉱法について, その基礎理論と浮選分離機および浮選法の応用例などに現象論的に講述する。さらに, これらの浮遊選鉱分離機構および分離操作の理解に必要な不可欠なコロイド化学や界面化学の基礎についても講述する。
溶媒抽出法	3	溶媒抽出法による物質の高度分離に関する基本原理, 溶媒抽出に使用される装置などについて述べる。さらに, 溶媒抽出反応にともなう移動現象および溶媒抽出反応操作について講述する。
比重・重液選別・薄流選別法	3	比重選別の理論, 比重選別装置, 応用例について述べる。さらに, 重液選別において使用される重液材及び重液, 重液選別装置, 浮沈試験による重液選別評価法について述べる。また近年その重要性が増している薄流選別法についても講述する。
静電および磁気選別法	2	静電および磁気選別の理論, 選別装置, それらの応用例などについて述べる。
特殊な選別法	1	上記以外の静電選別, 色彩選別, 放射能選別, 蛍光選別, 微粒子選別などについて, その基本原理, 装置, 応用例などについて述べる。

【参考書】アトキンス/物理化学(上・下)

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略, 追加がありうる。

塑性学

30790

Technology of Plasticity

【配当学年】3年後期

【担当者】宅田

【内 容】塑性体に関する力学の基礎，各種塑性加工における材料の変形挙動の解析

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
塑性および塑性加工の概要	1	塑性の概念，転位論，塑性加工の歴史，各種塑性加工法とその分類，塑性加工用材料，応力とひずみの定義
金属材料の変形抵抗	2	応力-ひずみ曲線（変形抵抗曲線），加工硬化・ひずみ速度・温度などの変形抵抗に影響する因子とその特徴，変形抵抗曲線の数式化，塑性変形仕事と平均変形抵抗，くびれの発生条件と変形抵抗式
塑性力学の基礎式	3	任意の面における垂直応力とせん断応力，応力の不変量，トレスカの降伏条件，ミーゼスの降伏条件，相当応力および相当ひずみ，レービー・ミーゼスの式（ひずみ増分理論），全ひずみ理論
塑性加工の初等解法	3	平面ひずみ変形における降伏条件，工具と材料の摩擦条件，固着領域における摩擦応力，平面ひずみ圧縮および軸対称圧縮の初等解法，板材の圧延の初等解法（カルマンの圧延方程式）とその応用
エネルギー法，上界法	2	エネルギー法および上界法の概念，上界定理，速度不連続面の取扱い，外力と摩擦の取扱い，速度場の最適化，上界法を用いた解析例，下界法
塑性加工の各種解析法	2	すべり線場法，有限要素法，半実験的解析法などの概念と解析例

【教科書】大矢根守哉 監修：新編 塑性加工学（養賢堂）

【予備知識】解析例の理解には「情報処理及び演習」，「工業数学B2」の履修を前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

工業火薬学

30990

Engineering of Industrial Explosives

【配当学年】3年後期

【担当者】高橋

【内 容】火薬類に関する全般的な知識の取得を目的とし、火薬類の高速反応とそれによる効果、各種火薬類の用途と特徴、火薬類の安全性と性能の評価などについて述べる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
火薬類について	4	火薬類と燃料の相違点、火薬類の法規上の分類や組成上の分類、火薬類の反応形態である定常燃焼、爆燃、爆轟について述べ、超高圧の発生や新素材の合成など火薬類の新しい応用についても述べる。
原料火薬類	2	実用に供せられる混合火薬類のベースとなる、各種の化合火薬類の性質・特徴について述べる。
各種火薬類の用途と特徴	3	ダイナマイト、含水爆薬、ANFOなどの産業用爆薬をはじめ、無煙火薬や推進薬について、その代表的なものの用途と特徴について述べる。
火工品	2	代表的な火工品である電気雷管および近年開発が進められているIC雷管、ロケット用火工品などの種類と用途について述べる。
火薬類の安全性と性能の評価	3	火薬類の安全性と性能の評価に用いられる各種試験法、火薬類の研究に用いられる最近の計測技術などについて述べる。

【教科書】講義プリントを配布する。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

海洋資源論

31140

Ocean Resource and Energy Technology

【配当学年】3年後期

【担当者】宅田裕彦、楠田 啓

【内 容】海洋資源量、探査法、揚鉱法を中心に海洋資源開発について論じる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
海底と海洋	1	海洋の大きさ、海底の地形などについて述べる。
海洋鉱物資源	1	海水に溶存する資源について、資源量、抽出法などについて述べる。
海底鉱物資源	2	深海底鉱物資源のマンガン団塊、コバルト・リッチ・クラスト、熱水鉱床などについて述べる。
海 洋 エ ネ ル ギ ー 資 源	1	潮汐、波浪、熱などの海水からのエネルギー資源について述べる。
海 底 エ ネ ル ギ ー 資 源	2	メタンハイドレートなど海底に存在するエネルギー資源について述べる。
大陸棚の資源	1	錫、石油、天然ガスなど大陸棚に賦存する資源について述べる。
深海底鉱物資 源の揚鉱	3	深海底鉱物資源の揚鉱プロセスとその理論の概要について述べる。
地球温暖化と 海洋	1	地球温暖化と海洋の関係について述べる。
海水の淡水化	1	海水の淡水化技術とその利用について述べる。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

応力解析法及び演習

30650

Stress Analysis and Exercises

【配当学年】3年後期

【担当者】齋藤・塚田

【内 容】コンピュータによる数値応力解析に必要な理論と解法を述べ、いくつかの例題について主にマトリクス法と有限要素法による応力解析の演習を行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
エネルギー原理入門	5~6	ひずみエネルギー関数を定義し、仮想仕事の原理、最小ポテンシャルエネルギーの原理を導き、弾性基礎式との関連について述べる。また、これらと相補的な原理についても述べる。
コンピュータを用いた数値応力解析	4~5	エネルギー原理に基づく近似解法について述べ、有限要素法の定式化を行う。また、差分法、境界要素法についても簡単に述べる。
模型実験	2	次元解析とその構造解析問題への適用について述べ、数値解析を含む模型実験による応力解析法の基礎について述べる。
(演習)トラス構造物のマトリクス法による解析	6	トラス構造のマトリクス法による応力解析の方法を解説し、平面トラス構造のための電算機プログラムを作成する演習を行う。
(演習)平面弾性問題の有限要素法による解析	8	二次元平面弾性問題の有限要素法による定式化、および、その電算機プログラミング技法について解説し、例題についてそのプログラムの作成と実行の演習を行う。

【予備知識】弾性学及び演習、情報処理及び演習

【その他】講義を中心とした授業（週1コマ）と演習（週1コマ）を並行して行う。

製鉄製鋼設備

31000

Iron and Steel Making Systems

【配当学年】3年後期

【担当者】今西

【内 容】鉄鋼の製造工程の基本的な概念を設備学的観点から講述する。とくに高炉設備、転炉設備と連続鋳造設備に重点を置き、設備の最適化と設備間の相互作用について言及する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
世界における鉄鋼の動向とエネルギー	2	鉄鋼の歴史的経緯と産業革命以降の技術的発達について説明するとともに、世界における鉄鋼の動向をエネルギー消費の観点から述べる。
鉄鋼設備と生産設備	2	鉄鉱石、原料炭の性状分類、設備、価格などについて述べ、わが国鉄鋼業の原料政策を説明する。さらに、ペレット、焼結鉱、合金鉄原料の設備と技術について述べる。
高炉技術	2	高炉設備とその付帯設備の関係について述べるとともに、高炉の操業技術を材料、物質、熱のバランスから説明する。
還元製鉄	3	直接還元製鉄法及び溶融還元製鉄法の歴史的発展の経緯と開発中の方法と設備について述べる。
製鉄・製鋼技術	3	転炉、電気炉、炉外精錬技術と設備について述べるとともに、製鉄全般の省エネルギー対策及び製鉄制御システムの適用例を述べる。
鉄鋼リサイクルなどの環境問題	2	鉄鋼製造工程から発生するガス、スラグ、水及びスクラップのリサイクルについて、エネルギーと環境の点から説明する。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

上水道工学

30540

Water Supply Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】伊藤（禎）

【内 容】都市供給の一つとして水道を取り上げ、これを生（いのち）を衛（まも）る具体的技術であるとの観点から論ずる。浄水処理技術を講述するのみではなく、流域の水循環システムにおける水道システムの位置づけ、水道水質のリスク管理手法にも重点をおき、共に考えながら講義を進める。成績評価は期末試験、出席等を勘案して行う。（期末試験 60 点+出席 40 点、合計 100 点満点）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
科目概説	1	生（いのち）を衛（まも）る衛生工学とは何かについて論ずる。ついで、水道工学技術はその具体例であることを述べ、本講義の目標を示す。
流域管理と水道システム	2	流域の水循環システムにおいて水道システムを位置づけた後、水道水源の保全のあり方、流域統合管理とその意義について論ずる。
上水システム概説	1	水源から都市内各戸に至る全体システムを紹介し、本講義でとりあげる事項を概説する。
浄水処理プロセス	4	浄水処理の基本は、懸濁物質の除去と消毒である。緩速ろ過システムと急速ろ過システム、急速ろ過システムの単位操作、水中微生物と消毒について講述する。また、消毒によって発がん性を有する副生成物が生成することも詳述する。
高度処理プロセス	1	現在では、上記の基本的な浄水処理だけでは、複雑な水源水質や水道水に対する多様なニーズに対応することは困難である。ここでは、オゾン処理、活性炭吸着、膜分離法などの高度処理法とその意義について述べる。
水道水質管理	4	水道水中には微生物によるリスクと化学物質によるリスクが存在することを紹介し、確保すべき安全度のレベルについて考察する。ついで、現在の水道水質基準の考え方と設定法について講述した後、将来の水質管理のあり方を展望する。

【参 考 書】住友恒、村上仁士、伊藤禎彦著：環境工学—これからの都市環境とその創造のために—（理工図書）

【予備知識】環境生物・化学、水質学などを履修していることが望ましい。

【そ の 他】オフィスアワーは特に設けないが、質問や学修上の相談があれば工学部 5 号館 224 室を訪れること。

下水道工学

30550

Sewerage System Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】津野・藤井（滋）・田中・山田

【内 容】より快適な生活環境を創造し健康で健全な社会生活を営む上で、汚水を集め処理する下水道は必須のものとなり、社会基盤施設として緊急整備が必要なものとして位置づけられている。本講義では下水道の役割、目的及び意義を概述し、水質管理との関連を明確に提示し、建設工学的立場から施設の構成、設計並びに管理についての関連技術を整理して系統的に講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
下水道基本計画	3	水環境創造・管理に係わる下水道の役割・意義について概述し、下水道の種類や流域別下水道総合計画、下水道類似施設との関連について口述する。また、技術者倫理に関連する事例について解説する。
下水流収システム	3	下水道では、汚水と雨水とを流収し、処理し、処分している。下水道管渠の計画設置に係わる基本原理を口述し、付帯する沈砂池やポンプ場について概述する。
下水処理技術	5	下水処理法の種類（簡易処理・中級処理・高級処理）とその選定法を概述し、それぞれの基本的処理フローを口述する。また、単位操作として物理的固液分離処理と生物処理（活性汚泥法や回転円板法）の浄化機序について詳述する。そして、高度処理についても概述する。
下水汚泥の処理・処分	3	最終的な発生汚泥の処理処分について、基本構成について論じ、省エネルギーの立場から、新しい汚泥処理の方向について概述する。期末試験：定期試験期間中に行う。

【教科書】環境衛生工学（共立出版）

【予備知識】水質学・水理学など

【その他】オフィスアワーは特に設けない。本部教員については各教員室（津野 230 室、山田 232 室、いずれも工学部 5 号館）を訪れること。環境質制御研究センター教員（藤井、田中）については講義時にコンタクト方法を伝える。

水処理工学

30560

Water and Wastewater Treatment

【配当学年】3年後期

【担当者】松井・清水・松田

【内 容】各種産業活動により排出される廃水の特性，物理，化学，生物学的処理法の原理と内容，応用操作，技術開発の動向について論じる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概論	1	各種産業廃水の水質・水量特性，処理計画策定法について講述する。
膜分離法	2	逆浸透法，限外ろ過法，精密ろ過法の原理や特長など，膜分離法の基礎について説明する。また，上記膜分離法の産業廃水処理への応用について実例をあげながら述べる。
活性炭処理法	2	吸着法の原理，吸着剤，吸着等温式など，吸着法の基礎と活性炭処理法の特長について説明する。さらに，活性炭処理法を廃水処理に適用する場合の設計法と応用例について述べる。
イオン交換法	2	イオン交換法の原理，イオン交換樹脂の種類と特長などの基礎とともにイオン交換法を廃水処理に適用する場合の設計法と応用例について述べる。
化学平衡からみた廃水処理の原理	2	酸塩基平衡の関係を利用した廃水処理の原理と，溶解度積の関係を利用した廃水処理の原理について講述する。
酸化還元反応からみた廃水処理の原理	1	廃水処理で利用される酸化還元反応の原理について講述する。
重金属，有害物質処理	1	前述の化学平衡の諸原理を使った重金属，有害物質の処理方法を講述する。
有機物質の化学構造と生物分解性，毒性	1	有機物質を微生物を利用して分解処理する場合の基礎となる化学構造と毒性について講述する。
生物処理の生化学	1	微生物を利用した処理の原理となる生化学について講述する。

放射線衛生工学

30570

Radiological Health Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】森澤

【内 容】放射線の性質，放射線と物質との相互作用，放射線が人体及び生物に及ぼす影響，被曝線量限度，放射線の遮蔽，放射線被曝源，放射性廃棄物の処理と処分，放射線防護の方法，放射線環境モニタリング，環境放射能とその影響評価法等に関する工学的諸問題について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
放射線と放射能	2	放射線衛生工学の目的と体系，定義，講義内容の構成，放射線関連の今日的課題について概説する。また，原子核が崩壊し放射線を放出する機構，原子核の安定性，放射線の種類とエネルギー，崩壊系列等について講述する。
放射線と物質の相互作用	2	α 線， β 線， γ 線と物質の相互作用の機構と特性，原子核反応，崩壊関，放射化分析の原理等について講述する。また， γ 線の遮蔽，遮蔽材の種類と厚さ，電離放射線による外部被曝線量評価の方法等について講述する。
放射線の生物・人体影響	2	放射線が生物に与える影響の機構をDNA，細胞，固体レベルから解説する。人体に対する放射線影響を分類整理し，放射線防護の考え方，被曝限度値とリスク，被曝限度値設定の方法，法律による規制値等について講述する。
放射線被曝源と放射性廃棄物管理	2	人間が放射線を被曝する源を整理し，被曝の特色と程度，被曝の形態，被曝源の相対的重要度などについて講述する。将来的に人々の主要な被曝源になる可能性がある核燃料サイクル関連の放射性廃棄物の発生量と貯蔵量，処理と処分の方法，各国及び日本の廃棄物管理政策，将来の見通し等について講述する。
放射線の管理と防護	2	放射線障害の歴史，放射線疫学の方法，放射線防護のために使用される指標とそれらの意味，放射線管理の枠組み，放射線管理の指針，個人及び空間の放射線管理，管理用機器等について講述する。
環境放射能管理	3	放射線環境モニタリングの目標，安全評価の基本的考え方，原子力施設周辺のモニタリングの実態，食品等を介しての内部被曝線量を評価する方法，簡易被曝線量評価法について講述する。放射性フォールアウトの環境内循環を評価する事例を紹介し，環境中での放射性核種の動態を解析・評価する方法について論じる。

【参 考 書】石川友清編：放射線概論（通商産業研究社）
 （社）日本アイソトープ協会：アイソトープ手帳（丸善）

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

【配当学年】3年前期

【担当者】（環保）高月

【内 容】この講義では、都市および産業の活動に伴って排出される廃棄物の種類と性状、廃棄物管理計画、収集・運搬方法、各種の処理・処分方法、リサイクルなど、廃棄物管理に関する技術・システムの基礎、ならびにし尿の処理・処分方法の基礎について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
廃棄物管理概説・廃棄物処理計画	2	廃棄物管理の目的・意義・現状と問題点、廃棄物の定義と分類等、さらに、処理計画の目標、枠組みと概要、地域的処理体系および関連法制度について述べる。
都市廃棄物の発生と性状、収集・輸送	2	都市廃棄物発生の現況と変遷、性状および組成ならびに分析方法について説明し、分別収集などの収集の形態、収集方法や収集運搬設備について述べる。
都市廃棄物の焼却処理	2	焼却システムと施設、ごみの燃焼特性、焼却炉設計の指標と設計法概要等、焼却炉の運転・管理、排ガス処理、余熱利用等について解説する。
産業廃棄物の処理	2	産業廃棄物の定義、回収・排出実態、調査方法、法体系、処理の技術・システムについて解説する。
廃棄物の再資源化	1	再資源化の現状と動向および方法の分類、再資源化のための社会システム・技術システム等について述べる。
廃棄物の最終処分	2	最終処分の目的と枠組み、埋立処分・海洋投棄処分の方法、埋立地における物質の変化・安定化、汚濁物質の浸出と浸出水処理について述べる。
有害廃棄物の処理・処分	1	有害性および特別管理の概念、有害性の判定方法、有害廃棄物の安定化処理、最終処分方法等について述べる。
し尿処理	1	し尿の処理体系、し尿の性状、し尿の収集・処理および発生源処理について述べる。
映像による学習	1	廃棄物処理全般あるいは個別問題についてスライド、ビデオ等により学習する。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

環境システム工学

30600

Environmental Systems Engineering

【配当学年】3年後期

【担当者】武田・藤原

【内 容】環境システムにおけるプロセスのモデリング、システム解析、及びフィードバック制御系設計について基礎を講述し、各種処理プロセスへの具体的な解析・制御系設計アプローチについて述べる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	1	環境システム全般に関するモデリング、システム解析、制御系設計のアプローチについて概要を述べる。
プロセスのモデル	4	環境システムにおけるプロセスの物質収支式、熱収支式のたて方について説明する。伝達関数及び状態方程式について理解させる。
線形システムの解析	4	線形システムの解析について説明する。極とゼロ、周波数伝達関数、ベクトル線図、ボード線図などについて説明する。
フィードバック制御系	3	フィードバック制御系の設計とその評価の方法について説明する。主に PID 制御とパラメータのチューニングについて述べる。
制御システムの実例	2	環境システムにおける制御の実例を紹介する。また、運転監視や運転支援、システムの保全などの現状を紹介する。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

地球工学科

学外実習第一

31010

Spot Training 1

【配当学年】3年後期

【担当者】関係教官

【内 容】社会基盤施設の整備に取り組む国，地方公共団体，公団，公社などの諸機関において，構造工学，水工学，地盤工学，計画学などの地球工学の方法論や考え方を，実際への適用例を通して習得させる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
構造工学，水工学，地盤工学，計画学に関わる実習	*	構造物の力学特性およびその合理的設計を実現する構造工学の方法論，水工構造物の設計の基礎となる水の力学および水文学，土・岩盤の特性および土構造物の設計の基本的考え方，各種構造物を合理的に計画する方法論の原理などを実際への適用例を通して習得させる。

【予備知識】構造力学，水理学，土質力学および計画システム分析等の基礎科目を前提としている。

【そ の 他】当該年度の受入機関などに応じて実習内容を決める。
夏季休暇中の約1ヶ月間

地震・風工学

30830

Earthquake and Wind Engineering

【配当学年】4年前期

【担当者】松本勝・澤田純男

【内 容】この講義では、土木構造物の地震、強風による挙動評価と、それらに対する設計法について概説する。特に、環境荷重としての評価法の他、構造物の動的挙動評価、耐震設計、耐風設計に重点を置いて講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
地震荷重・風荷重の工学的評価	2	環境荷重としての地震荷重、風荷重を評価するための統計・確率理論および不規則振動論の基礎と設計震度、地震スペクトル、設計風速の決定過程という応用面を説明する。また、技術者倫理に関連する事項・事例について解説する。
地盤振動	2	地震の発生メカニズムと地盤振動の特性に基づいて、地震動の大きさを評価する方法について解説する。また、地震計の原理について述べる。
構造物の地震応答	3	構造物の応答特性評価に必要な、1自由度系の運動方程式とその解法について解説する。さらに、弾性設計法および弾塑性設計法について詳述する。
自然風の特性と設計風速	2	自然風の特性、強風の成因を説明し人間生活とのさまざまな関わりとそれらの統計・確率的性質を述べる。また構造物の設計風速決定に関わる諸因子を述べその決定の過程を述べる。
構造物の空力弾性挙動	3	種々の幾何学形状を有する構造断面に生じる様々な空力弾性挙動（渦励振、ギャロッピング、フラッター、パフェッティング等）の種類とそれらの発生機構を説明する。
耐震設計・耐風設計の概要	2	種々の構造物（長大橋を含め）の耐震設計・耐風設計の現状と課題に付いて説明する。

【教科書】特に無し

【予備知識】確率・統計理論の基礎、振動・波動論の基礎、流体力学

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加が有り得る。

ターミナル工学

30820

Terminal Facility Engineering

【配当学年】4年前期

【担当者】小林（潔）、谷口

【内 容】現代社会において港湾や空港は豊かな国民生活や国際交流にとって不可欠な社会資本となっている。今日、港湾や空港のもつ機能と役割はますます多様化し、複合化しつつある。本講義においては交通経済学、公共経済学の立場から、港湾や空港の機能やそれが地域経済に及ぼす影響について論じるとともに、それらをいかに計画し、設計し、建設するかについて実際的な知見に基づき論述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説	1	交通ネットワークの中のノードとしてのターミナルの機能と役割について概説する。
物流ターミナル	2	トラックによる物流の拠点としての広域物流拠点、トラックターミナル、都市内デポなどの物流ターミナルについて、求められる機能、計画手法、設計手法についての経済活動との関連について講述する。
バスターミナル・駐車場	2	自動車交通の中におけるバスターミナル・駐車場の機能、問題点について述べ、その計画手法・設計手法について講述する。また、円滑な道路交通を実現するための方策についても論じる。
鉄道駅・駅前広場	1	鉄道と他の交通機関との結節点としての駅及び駅前広場について、その果たすべき機能、計画手法、設計手法について講述する。
運輸経済とターミナル	1	社会資本としての公共ターミナルの機能とターミナルが輸送活動や地域経済に及ぼす影響について概説する。あわせて、交通経済学について概説し、ターミナル経済に関する基礎的な理解を深める。
港湾	3	港湾整備の歴史を振り返り、港湾と地域経済の関わりについて論じ、国際的・長期的な視点から見た港湾計画の基本的な考え方について講述する。さらに港湾施設の計画・設計手法の詳細についても述べる。
空港	2	国際・国内交通においてますます重要性が増している航空輸送について、その特性と現代社会における役割を論ずる。さらに航空輸送の要としての空港に求められる機能、計画手法、設計手法について講述する。
まとめ	1	円滑なマルチモーダル輸送を実現し、地域活性化に資するための今後のターミナルの計画における基本的な考え方について展望する。

【教科書】奥野正寛、篠原総一、金本良嗣編：交通政策の経済学（日本経済新聞社）

土木法規

30840

Administration of Public Works

【配当学年】4年前期

【担当者】伏見

【内 容】現行の土木行政法規の概要を述べ、それらと国づくり、まちづくり、土木施設との係わり、計画、建設、管理、運営の実際を解説する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
序論	2	・土木工学の語源、略史を述べる。 ・土木における官民の役割分担と土木行政法規の大系を述べる。
基本となる法規	1	・土木事業の基本となる法令について述べる。就中、土木施設用地の取得に関する法令について考察する。 (憲法, 民法, 土地収用法, 国土総合開発法, 国土利用計画法, 土地基本法)
土木施設 自然公物: 河川	2	・河川法、海岸法、砂防法、地すべり等防止法、急傾斜地災害防止法等について解説する。
土木施設 人工公物: 道路、鉄道、港湾、空港など	3	・人工公物である土木施設の計画、建設、管理、運営について、法規に則り解説する。 (道路法, 道路整備特別措置法, 高速自動車国道法, 国土開発幹線自動車道建設法, 道路運送法, 港湾法, 航空法, 空港整備法, 鉄道事業法, 軌道法, 全国新幹線鉄道整備法, 都市モノレール法)
土木計画と “まちづくり”	2	・都市計画や土地利用計画、まちづくりの事業に関する法令を解説する。 (都市計画法, 建築基準法, 森林法, 農地法, 土地区画整理法, 都市再開発法, 新住宅市街地開発法, 公有水面埋立法)
土木施設と 環境, 文化財	1	・環境に関する土木行政法規や土木事業に関わる環境アセスメントについて述べる。 (都市公園法, 自然公園法, 下水道法, 環境影響評価法, 環境影響評価条例, 文化財保護法, 大気汚染防止法, 騒音規制法)
建設工事と 事故, 災害 技術者の ライセンス	2	・建設工事、災害、事故に関する主な法規を概説する。 (国家賠償法, 公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法, 建設業法, 道路交通法) ・土木工学の新しい展開について述べる。

【教科書】講義プリントを配布する。

材料実験

30860

Construction Materials, Laboratory

【配当学年】4年前期

【担当者】宮川豊章・服部篤史・高橋良和・山本貴士・大島義信・(技) 桧垣義雄

【内 容】材料学およびコンクリート工学で講述する材料の特性を実地に習得させるため、主としてコンクリート材料およびコンクリートを中心とする実験および部材試験を行う。成績評価は、各回のレポート点の合計を勘案して行う(100点満点)。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説	1	本実験の内容を概説し、各実験の意義および注目すべき項目を述べる。また、実験で用いる計測技術について述べるとともに、試験および調査の方法について概観する。
セメント	1	セメントについて、比重、粉末度、凝結、モルタルのフロー試験を実施する。
骨材	1	細骨材、粗骨材について、比重、吸水率、ふるい分け、単位容積重量、表面水率の試験を実施する。
配合設計およびフレッシュコンクリート	1	「セメント」「骨材」で得られた結果を用いて配合設計を行い、フレッシュコンクリートを作成してその性状を検討するとともに、「硬化コンクリート」用供試体を作成する。
硬化コンクリート	2	「フレッシュコンクリート」において作成したコンクリート供試体について、各種破壊試験および非破壊試験を実施する。
鉄筋	1	コンクリート補強用鉄筋について、降伏点、引張強度、伸びなどの引張性状を調べる試験を実施する。
はりの設計	2	鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートはり供試体の設計を行う。
はりの打設	1	「はりの設計」に基づいて、実際にコンクリートはりの打設を行う。
プレストレストの導入	1	プレストレストコンクリートはり供試体に対してプレストレストの導入を行う。
はりの載荷	2	作成した各はり供試体の載荷を行い、曲げ性状およびその違いを検討するとともに、「はりの設計」において求めた諸荷重値の確認を行う。
期末試験	0	実施しない。

【教科書】岡田清監修: 建設材料実験(日本材料学会)

【予備知識】第3学年において、材料学、コンクリート工学を履修しておくことが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。随時、各教員室(宮川410号室、服部412号室、高橋254号室、山本410W号室、大島452号室、いずれも工学部5号館)を訪れること。

地球防災工学

30880

Global Engineering for Disaster Prevention

【配当学年】4年前期

【担当者】(防災研) 河田恵昭

【内 容】近年の地球規模の自然環境や社会環境の急激な変容に伴って、先進国、発展途上国を問わず自然災害の様相は変貌し、複雑化するとともに、阪神・淡路大震災のような都市大災害の発生が憂慮される。そこで、地震災害、水災害などの自然災害の学理の基礎とその対策方法について講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
現代の災害と都市災害	2	都市化の社会的問題、地球規模の都市化、災害脆弱性、都市の災害の区分、都市災害の特徴、災害文化の育成、被災経験の風化、都市災害の解析、都市大災害の発生などについて述べる。
災害の進化と比較災害論	3	近年のわが国の自然災害、進化する災害、都市水害の激発、自然災害としてのペスト、わが国の天変地異の特性、災害環境と疫病環境、災害観と自然観、比較津波災害論などについて述べる。
巨大災害とその復元	3	わが国の巨大災害、世界の巨大災害、わが国と中国の気候の類似性、巨大気象災害の周期性、巨大災害（1）—安政南海地震津波—。巨大災害（2）—枕崎台風—について述べる。
都市総合防災システム	3	総合防災システムの必要性、生体防御。都市と生体の類似性、生体防御の都市防災への応用、都市災害対策、都市の地下空間水没、こころのケア、ボランティア、防災地理情報システム（GIS）、危機管理、都市総合防災システムを述べる。
地震災害対策と水災害対策	2	わが国の現在の地震と水災害対策の骨格とその考え方の背景を概述する。

【教科書】河田恵昭：都市大災害（近未来社）、河田恵昭編著：水循環と流域環境（岩波書店）

【予備知識】自然科学のみならず社会科学に関心をもっていることを前提としている。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて突発災害の話題の追加がありうる。

地球工学デザイン I (土木工学コース)

31150

Design Exercise for Global Engineering I (Civil Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】樋口忠彦・川崎雅史

【内 容】都市構造物と公共空間の文化的環境、人の活動を理解し、それらと密接な関係に基づく空間編成のあり方を、道や広場、水辺の公共空間、都市施設の景観デザインの実践的表現のトレーニングによって習得する。主に設計事例の図面のトレースや人と環境との調和をめざした景観デザインのエスキースを行ない、総合的な空間理解を深める。成績評価は演習課題のレポートを総合して行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
概説	1	景観デザインの実践的なプロセスについての概説を行う。
設計図面の解読	2	街路・広場、水辺の公共空間、都市施設の景観設計、シビックデザインの事例図面を解読し、その評価視点を考察する。
設計図面とその表現方法	1	景観設計図面の配置図、平面図、断面図、パース図のそれぞれについて、その表現方法を講述する。
デザイン演習－都市ベースマップの作成	2	都市計画的規模の平面配置図、パース図、アクソメ図を中心とした都市のベースマップのトレースを通じて都市空間レベルの表現と理解を深める。
デザイン演習－設計図面のトレース	3	街路・広場、都市施設の景観設計、シビックデザインの事例図面の解読を行い、その部分的なトレースを通じて景観デザインの評価視点を特記させる。
デザイン演習－実測に基づく設計図面の作成と景観把握	4	水辺とまちの断面配置図を作成し、基本的な空間断面の骨格を理解し、両者の関係性の理解を深める。実際の景観設計事例の実測に基づいて、公共空間と小施設の設計図面、配置図、平面図、断面図を作成し、総合的な空間理解を深める。

【参考書】建築設計資料 17 歩行者空間 (建築資料研究社)

【予備知識】都市景観デザイン (3年後期) を履修していることが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。質疑は各教員室 (樋口 D404 室、川崎 D406 室、いずれも 5 号館) を訪れること。

地球工学デザイン I (資源工学コース)

31151

Design Exercise for Global Engineering I (Resources Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】内容欄参照

【内 容】前期の前半において (a) または (b) のいずれかを、後半において (c) または (d) のいずれかを選択して履修すること。詳しい授業計画は開講時にガイダンスする。

(a) の担当者: 芦田・菅野・真田 (b) の担当者: 石井・福中・日下

(c) の担当者: 青木・新苗・水戸 (d) の担当者: 馬淵・楠田・陳

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
(a)	前半 14	室内模型を用いて簡単な屈折法の実験を行い、屈折法地震探査を習得するとともに、棒内を伝播する波動の挙動を観測し、重複反射、応力についての基礎的知識を習得する。また、賀茂川河岸において屈折法地震探査・電気探査を行い、現場データを取得し、解析プログラムを用いてデータ解析を実施する。さらに、ワークステーション及び反射法地震探査用データ処理ソフトウェアを用いて、反射法地震探査のデータ処理を行うとともに、物理検層ソフトウェアを用いて、物理検層解析技術を習得する。
(b)	前半 14	物理化学は地球環境科学やエネルギー科学分野の諸研究の出発点として必修の科目であり、また、資源工学が立脚する地球科学という立場からも、鉱物資源の生成機構の解明などには物理化学的素養は不可欠である。このことを踏まえ、物理化学や熱力学に関連した応用数学、物理的変態、化学平衡、電気化学、界面化学、反応速度論における基礎的な問題について演習を行い、それらに対する理解と研究における適用力を高めさせる。
(c)	後半 14	岩盤の工学特性とその調査・試験法および設計・施工法への適用、地盤、岩盤内の地下水、物質の移動現象とそのメカニズム、高レベル放射性廃棄物の地層処分、汚染土壌の浄化技術など資源環境システムに関する具体的問題点について解説するとともに、データ解析・モデル形成・予測設計の基礎及び応用についての演習・レポート作成を通じて、これらに関する基本的考え方を体得させる。
(d)	後半 14	地形情報処理技術と資源統計処理技術の基礎と応用について学習する。前者では、地形情報のデジタル化および地形図の作成、景観シミュレーション、偏光顕微鏡による鉱物の同定、蛍光観察法による間隙、クラックの抽出ならびに画像処理による解析と評価である。この他に地質調査の基礎知識の把握のため、野外調査を行う。後者では、データベースに格納された資源統計を用いて資源エネルギーの需給動向の把握と現・近未来における需要予測を試みる。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

地球工学デザイン I (環境工学コース)

31152

Design Exercise for Global Engineering I (Environmental Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】松井三郎、松本忠生、越後信哉、内田信一郎

【内 容】具体的な地域と地域の水環境にかかわる課題を設定して、上・下水道の基本計画及び基本設計の演習を行う。3年次までに習得した知識を応用して施設の計画・設計を行いつつ、現実的な条件や制約のもとで解を見いだす、あるいは選択する、プロセスを経験することがねらいである。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
環境施設の計画・設計	1	都市の給排水の現状と課題について講述する。また、環境施設の計画・設計のプロセス、「設計基準」等について概説し、本演習のねらい、進め方を説明する。
上・下水道基本計画	2	対象地域の設定、地域の特性や問題に基づく計画課題の設定、都市の構想と概略の計画、及び給排水施設の計画（区域、方式、規模、処理場の立地などの決定）といった一連の手順を説明する。人口予測と給水量及び下水量計画値の推算を演習する。
上水道基本設計	2	配水施設（配水管網）及び浄水場施設を主内容にして、上水道施設の配置及び容量の決定方法を説明する。簡単な事例で演習するとともに既設の施設の設計図を読み、当該実施設の見学を行う。
下水道基本設計	3	下水道設計の最新の状況を解説するとともに、下水管きょ施設、処理場施設の容量及び配置の決定方法を説明し、簡単な事例で演習する。実施設の見学を実施する予定。
計画、設計事例演習	5	各自が任意の実地域を選定して具体的な計画、設計作業を行う。すなわち、各々が設定した目標や課題にしたがって都市のランドデザインを決め、土地利用を概略定めるとともに、上下水道施設の立地、配置を検討する。配水管網と下水管ルートを決めて管径や流量を決定する。浄水場もしくは終末処理場施設の容量計算を行う。作業過程で現れる問題を議論、検討しながら進め、一連の作業を図面や計算書資料にまとめる。配水管網の設計はコンピュータを利用する。また、時間の関係で、一部作業を割愛、簡略化することもある。
プレゼンテーション	1	計画・設計作業のまとめを本演習での成果として各自が発表する。全員で議論を行い、本演習で実施した全般について理解を深める。

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】「水道施設設計指針(2000)」(日本水道協会)、「下水道施設計画・設計指針と解説(1994年版)」(日本下水道協会) など

地球工学デザイン II (土木工学コース)

31160

Design Exercise for Global Engineering II (Civil Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】松本 勝・宮川豊章・服部篤史・関 文夫

【内 容】前半の講義では、鋼橋の構造力学的設計に関わる荷重・外力論と構造物の設計法を説明するとともに鋼構造物の形態的、造形的特徴からその景観設計の考え方について述べる。また、後半の講義では鉄筋コンクリートおよびプレストレスコンクリートの基礎理論およびデザイン、部材設計に関する講義と演習を行う。

成績評価は、中間レポート(製作含)、期末レポート等を総合的に勘案して行う(中間レポート 50点、期末レポート 50点、合計 100点満点)。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
鋼構造物に作用する荷重，外力の評価	2	鋼構造物に作用する種々の荷重，外力（死荷重，活荷重，地震荷重，風荷重等）と構造物の応答について説明する。
鋼構造物の造形的特徴と形態論	6	特に橋梁について，それらのデザインコンセプトとその表現方法に事例を紹介すると共に，造形的・形態的特徴をイメージ言語によって表し，望ましい構造物の景観・形態について説明する。
エッセティクス，エコデザイン，シナリオデザイン	1	コンクリート及びコンクリート構造物の美学，エココンクリート及びコンクリート緑化の考え方，事例，ならびにコンクリート構造物の寿命，リハビリテーション，メンテナンスについて解説する。
プレストレスコンクリートの設計	4	プレストレッシングの基本理念，プレストレスの導入方法について概説するとともに，プレストレスの時間的減少のメカニズムとその評価方法について述べる。さらに，プレストレスコンクリートの曲げ及びせん断挙動の解析と設計に関する基礎理論を講述するとともに，曲げに対する断面の設計法について述べる。
期末試験	0	実施しない。

【教科書】後半について，岡田清監修，藤井学・小林和夫共著：プレストレスコンクリート構造学(国民科学社)

【参考書】その都度指示する。

【予備知識】構造力学 I 及び演習，構造力学 II 及び演習，構造力学 III，構造実験，材料学，コンクリート工学を履修しておくことが望ましい。

【その他】オフィスアワーは特に設けない。随時，各教員室(松本・関 114号室、宮川・服部 412号室、いずれも工学部 5号館)を訪れること。一部省略，追加，および順序の変更があり得る。

地球工学デザイン II (資源工学コース)

31161

Design Exercise for Global Engineering II (Resources Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】内容欄参照

【内 容】前期の前半において (a) または (b) のいずれかを、後半において (c) または (d) のいずれかを選択して履修すること。詳しい授業計画は開講時にガイダンスする。

(a) の担当者: 斎藤・朝倉・村田 (b) の担当者: 宅田・藤本

(c) の担当者: 松岡・平野・山田 (d) の担当者: 塚田・李

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
(a)	前半 14	資源開発における岩盤工学の果たす役割とその重要性、及び地下大空洞や大規模斜面を設計する上で重要な要素となる岩石・岩盤破壊の評価に関連した岩石の破壊現象及び破壊条件について講義する。また、岩石・岩盤の最も基礎的な物性である弾性係数・圧縮強度・引張り強度・弾性波伝播速度の測定法、及び岩石の破壊現象ならびに破壊条件について演習及び実験を通じ学習させる。さらに、簡単なモデル実験と有限要素法解析を用いて、地下空洞の変形破壊に大きく影響を及ぼす空洞周辺に発生する応力について理解を深めさせる。
(b)	前半 14	流体力学、伝熱学、塑性学における基礎的事項を題材として数値シミュレーションについて学習させる。自らプログラミングし、その結果をグラフィック化する経験を通じて数値シミュレーションの基礎と応用について体得させる。
(c)	後半 14	地下資源開発や岩盤構造物建設を題材として、地殻や岩盤の調査及び探査、評価、解析ならびに採掘計画や設計施工に至る一連の流れにおける地質調査の役割と考え方、各種地質調査・計測技術とその適用、得られた地質情報の解析と評価・利用技術について解説するとともに、実例を対象とした演習や実習を通じて、これらに関する基本的な考え方や方法を体得させる。
(d)	後半 14	単純なシステムの動的挙動を対象として、現象の計測、対象のモデル化、制御系の設計・製作を実習することによって、計測と制御（アナログとデジタル）及び電気回路製作の基礎を学ばせる。1自由度振動系のアクティブ制振を取り上げ、計測（振動現象のパソコンによる自動計測）、理論（現象の理論モデル及び振動制御の理論）、設計（制御系設計実習）、製作1（パソコンを核とした制御システムの構築）、製作2（電気回路による制御系の実現及び回路製作とその評価）を学習させる。

【そ の 他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

地球工学デザイン II (環境工学コース)

31162

Design Exercise for Global Engineering II (Environmental Engineering)

【配当学年】4年前期

【担当者】武田信生・高岡昌輝・松井利仁・山本浩平

【内 容】3年次までに会得した工学原理をもとに、環境施設の具体的な問題に対して創造的にアプローチする。前半の講義では、環境施設のうちの廃棄物処理施設に関する基本計画および設計を行う。後半の講義では、環境施設から排出される大気汚染物質の挙動の予測手法および施設からの騒音制御手法について習得し、具体的な計算を行う。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
廃棄物の排出量予測と基本計画	3	都市ごみ、産業廃棄物の発生量予測法を習得し、具体的な都市を想定して設計のための基礎数値を算定する。
廃棄物焼却施設の基本設計	3	燃焼計算を中心とした熱・物質収支の取り方を習得し、具体的な設定条件に基づいて基本設計計算を行う。
大気汚染物質の拡散計算	3	大気汚染物質の拡散予測手法を習得し、具体的な設定条件に基づいて、予測計算を行う。
施設からの騒音制御手法	3	環境施設からの騒音予測および騒音制御手法について習得し、具体的な設定条件に基づいて予測計算を行う。
結果の反省と評価	1	前回までに行ったそれぞれの計算結果について、総合的に議論を行い、評価し問題点を挙げる。

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】その都度指示する。

【予備知識】既習の原理や理論が基礎になるので、関連科目の履修が望ましいが、必須ではない。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加があり得る。

学外実習第二

31020

Spot Training 2

【配当学年】4年前期

【担当者】関係教官

【内 容】社会基盤施設の整備に取り組む国，地方公共団体，公団，公社などの諸機関において，構造工学，水工学，地盤工学，計画学などの地球工学の方法論や考え方を，実際への適用例を通して習得させる。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
構造工学，水工学，地盤工学，計画学に関わる実習	*	構造物の力学特性およびその合理的設計を実現する構造工学の方法論，水工構造物の設計の基礎となる水の力学および水文学，土・岩盤の特性および土構造物の設計の基本的考え方，各種構造物を合理的に計画する方法論の原理などを実際への適用例を通して習得させる。

【予備知識】構造力学，水理学，土質力学および計画システム分析等の基礎科目を前提としている。

【そ の 他】当該年度の受入機関などに応じて実習内容を決める。
春季休暇中の約1ヶ月間

工学倫理

21051

Engineering Ethics

【配当学年】4年後期

【担当者】大島・田中（一）・河合

【内 容】現代の工学技術者、工学研究者にとって、工学的見地にもとづく新しい意味での倫理が必要不可欠になってきている。本科目では各学科からの担当教官によって、それぞれの研究分野における必要な倫理をトピックス別に講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
応用倫理学としての工学倫理（文学部 水谷雅彦）	1	工学倫理の基本的な考え方を、他の応用倫理との比較において検討し、現代の科学技術の特殊性について、哲学的、倫理的な考察を行う。
環境リスクと環境倫理（地球工学科 内山巖雄）	1	環境と人間の係わりを認識し、環境負荷を与える我々人間活動と環境リスクシステムについて述べる。次に持続可能な発展から循環型社会を目指すこれからの環境工学の役割と環境倫理について講述する。
公共事業に携わる技術者の倫理（地球工学科 酒井哲郎）	1	最近経験した公共事業による事故の原因調査を例として、公共事業に携わる技術者の倫理について考える。設計基準の不完全、経験に基づく設計、情報の判断、危機管理、調査の公平性、技術者の限界、技術者の閉鎖性、世間の誤解、マスコミなど。
建築設計・施工における技術者倫理（建築学科 渡邊史夫）	1	建築に関わる職能（建築家、構造技術者、設備技術者等）について、法的根拠と実態を中心に解説し、その職能がいかに変化してきたか講述する。次に、「工事欠陥問題等」建築をめぐる様々な問題に対して、建築技術者がどのように対応すべきか、現行の法制度（PL法、品確法、建築基準法、建設業法、建築士法等）との関係において講述する。最後に、よい建築とは何かについて考える。
特許と倫理（法学研究科 松田一弘）	2	知的創造時代における特許制度の役割について基礎的な事項を学びながら、個人（発明者）と組織（企業・大学）と社会（公共の利益）の関わりのある方など、特許をめぐる倫理問題について考える。先端技術の特許による保護と倫理、特許とその他の法律（独占禁止法等）との関係などについても言及する。
情報倫理（情報学科 田中克己）	1	現在ウェブにつながれたコンピュータは、我々の生活から切り離せないものになってきているが、反面多くの問題を引き起こす可能性もある。このため、情報倫理、公正情報運用基準、セキュリティー、プライバシー、知的財産権などについて講述する。
化学物質と環境・安全（工業化学科 高月 紘（環境保全センター））	1	物づくりに関わるであろう工学技術者に製品アセスメントの考え方を理解させたい。すなわち、製品のライフサイクルを通じて発生する環境負荷を配慮した物づくりの必要性を、特に廃棄段階における化学物質の環境影響などについて事例を紹介しながら説明する予定である。これに関連して ISO の環境マネジメントや LCA（ライフサイクルアセスメント）などについても言及する。
遺伝子操作と倫理（工業化学科 今中忠行）	1	ゲノミクスを背景とした創薬研究など、バイオテクノロジーの発展は著しい。そのような時代にあって、遺伝子組換え実験、遺伝子組換え食品、遺伝子治療などにおける倫理と public acceptance (PA) の必要性について述べる。
21世紀の課題と倫理（物理工学科 山本 悟）	1	まず（1）過去の諸倫理観を批判的視点から概観する、つぎに、（2）戦争と平和の問題、人口問題、エネルギー・資源問題、食料問題、安全性の問題、環境問題、科学技術の問題、などの問題を世界的歴史的視点からとりあげ、21世紀の人類の課題を明らかにしたい。（1）、（2）の考察をもとに、21世紀を生きる科学者・技術者のもつべき倫理観について考察を進め、倫理的センスを磨く機会としたい。
科学技術と人間（物理工学科 藤本 孝）	1	「科学・技術の世界」に今われわれは生きているが、その淵源はヨーロッパ中世、ルネッサンス、産業革命にある。その時代における近代科学の成り立ちをある観点から跡づけることで現代科学・技術の持つ本質の一側面を明らかにする。現代社会における科学者・技術者のあり方について、それが示唆するところを考察する。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて、一部省略、追加及び講義順序の変更がありうる。

建築工学概論

30890

Introduction to Architectural Engineering

【配当学年】4 回生後期

【担当者】渡邊・上谷・井上・鈴木

【内 容】建築に関する各種構法の初歩的概説および建築の各構成要素について技術的考察を行う。まず木・土・石の建築などで構成される建築の発生とその後の変遷について、空間概念・構成を中心に概説する。次に近代建築の構造形式と各構成要素の解説を行い、それらの実現過程と構法計画の基礎的事項を講述する。

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
建築の始まりと変遷	4	建築の始まりと変遷を、(1) 人間の生活の発生に関連して初源のシェルターとしての建築の機能と意味、(2) 古代の日乾レンガの建築から始まる組積造建築、(3) 石造建築の組積造から軸組構造への発展と構造的展開、(4) 木造建築の特徴と木割りによる構成木組の構造的仕上等、を通じて講義する。
建築物の構造の仕組み	5	建築物の構造の仕組みを、(1) 建築物に作用する荷重・外乱、(2) 鉄骨構造・鉄筋コンクリート構造・木構造・組積造・複合構造など構成材料からみた構造法、(3) 骨組構造・シェル構造・吊構造・膜構造など力学的性質からみた構造形式、の観点から講述する。
建築物の実現過程	4	建築物の実現過程について、(1) 企画から設計、施工、維持保全に至るプロセスの概観と関係する職能・技術者、(2) 様々な在来型および革新的技術、構工法、の観点から講述する。

【教科書】構造用教材（日本建築学会）

【その他】[成績評価] 期末試験により行う。[オフィスアワー] 講義時間中に指示する。[教育目標] 基礎知識と専門知識

工学部シラバス 2004 年度版
(A 分冊 地球工学科)
Copyright ©2004 京都大学工学部
2004 年 4 月 1 日発行 (非売品)

編集者 京都大学工学部教務課

発行所 京都大学工学部

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町

デザイン シラバスワーキンググループ
syllabus@kogaku.kyoto-u.ac.jp
印刷・製本 電気系電腦出版局
(075) 753-5322

工学部シラバス 2004年度版

- A 分冊 地球工学科
- B 分冊 建築学科
- C 分冊 物理工学科
- D 分冊 電気電子工学科
- E 分冊 情報学科
- F 分冊 工業化学科
- オンライン版 <http://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/syllabus/>



京都大学工学部 2004.4